2003年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済開発論		春学期集中	4単位	望　月　和　彦

［講義概要・学習目標］

テーマ：通念への挑戦

アフガニスタンの現状を見れば、貧困がテロの温床となっていることが分かる。テロを撲滅するためには、貧困の解消、即ち経済発展を促進しなければならないのであり、その意味で開発途上国の経済発展問題は、すでに高い生活水準を達成した先進諸国にとっても他人事ではない。また私たちは、経済発展の結果生じた、または生じると考えられている色々な問題にも直面している。本講は経済発展に関する諸問題を取りあげて論じるものである。

私たちを取り巻く色々な言説の中には、一見科学的に見えるようだが実は科学でも何でもなく、単なる思いこみで主張されてるものがたくさんある。多くの人びとは「科学」という看板にだまされてしまい、その主張の根拠を問うことなくそのまま受け入れてしまう。その結果、単なる思いこみや信念を受け入れ、それに基づいて行動することになるが、それは非常に危険なことである。本講では、環境問題と資源問題に関するそのような思いこみを取り上げ、世上に流布している説と全く異なる考え方を提示する。どちらが正しいか、一度聞いてみて判断していただきたい。

本講では、経済発展に関する諸問題について、経済学だけではなく、社会学、政治学、哲学など多面的なアプローチで考えていくことにする。講義内容は前年度とほぼ同じである。より詳細な内容、プリントの内容については、以下のホームページをご覧頂きたい。

http://www.cg-s.bias.ne.jp/~mochan/index.htm

［講義計画］

導入　科学的思考とは何か　価値観の多様性と自由の基盤について
第一部　経済発展の歴史的意義
第１章　成長と停滞　どちらが当たり前？
第２章　進歩思想vs終末思想
第３章　産業革命の意義
第４章　第一次世界大戦
第５章　大量生産方式の成立
第二部　環境問題と成長の限界
第１章　現代の終末思想としての環境問題
第２章　今日の環境問題とその批判
第３章　成長の限界
第４章　doomsdayers vs cornucopian
　　成長の限界に対する批判
第三部　人口と経済発展
第１章　人口の歴史的動態
第２章　今日の人口問題
第３章　人口成長と経済発展
第４章　人口爆発をめぐる議論
第四部　経済発展の要因
第１章　経済発展の要因についてのこれまでの議論
第２章　経済発展の要因としての秩序
第３章　秩序の源泉
第４章　まとめ

［成績評価の方法］　期末試験の成績のみによって評価する。

［教科書］　望月和彦　『論考経済開発論』

［参考文献］
最初の講義の際に配布する受講生用シラバス（講義計画）で指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
公共経済論		春学期集中	4 単 位	竹　歳　一　紀

［講義概要・学習目標］

公共経済学の基礎について講義する。公共経済学の扱う範囲は広いが、一口で言えば、市場経済において公共部門の介入が必要となる諸問題を経済理論により分析することである。すなわち、公共部門（政府）の介入が必要となるのはどのような問題に対してであるか、また、適切な介入（政策）とはどういったものか、といったことについて示すことが重要な課題となる。

この講義では、①公共財と公共投資、②外部性と環境問題、③所得分配と社会保障、といったテーマをとりあげる予定である。

公共経済学を理解するためには、主としてミクロ経済学の知識が必要となる。講義でも適宜説明を加えるが、経済原論ＩＡ－１を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。

［講義計画］

1．公共経済学の対象
2．厚生経済学の基礎
3．公共財と公共投資
4．外部性と環境問題
5．所得分配と社会保障

［成績評価の方法］

中間試験および学期末試験の成績による。

［教科書］

特に指定しない。

［参考文献］

講義中に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
環境経済論		通　期	4単位	浦　出　俊　和

［講義概要・学習目標］

地球環境問題は、1)オゾン層の破壊、2)地球の温暖化、3)酸性雨、4)熱帯雨林の減少、5)砂漠化、6)開発途上国の公害問題、7)野生生物種の減少、8)海洋汚染、9)有害廃棄物の越境移動、の９つに分類可能であり、これらの環境問題は、人間の経済活動の結果生じたものである。しかし、環境財は、従来の市場メカニズムになじまない、あるいはボーダーレスであるという特質ゆえに、環境問題の解決は困難であるとされてきている。

本講義では、ミクロ経済学や公共経済学を援用しつつ、環境問題発生の経済的要因を明らかにするとともに、環境政策における有効な経済的な手段について検討を行う予定である。

［講義計画］

・環境問題と経済学
・ゴミ問題と経済学
・市場均衡と社会的総余剰
・市場の失敗
・外部性とその内部化
・公共財と環境財
・ＰＰＰの原則
・環境政策における経済的手段
・非枯渇性資源の経済的最適管理
・共有資源とゲーム論
・環境価値の経済評価

［成績評価の方法］

学期末試験の成績のみによって評価する。

［教科書］

特に指定しない。

［参考文献］

植田和弘（著）『環境経済学』（岩波書店）
R.K.ターナー・D.ピアス・I.ベイトマン（著）大沼あゆみ（訳）『環境経済学入門』（東洋経済新報社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
中小企業論		春学期集中	4 単位	義　永　忠　一

［講義概要・学習目標］

現状における中小企業に関する様々な問題を追いながら、特に製造業を中心に取り上げ講義を行います。
これまで中小企業論が注目してきた「問題性」の認識と、現在の課題を広く把握することを学習の目標とします。

［講義計画］

教科書に沿った形式で進めていきます。

［成績評価の方法］

講義中に数回、小テストを実施します。
期末に行うテストにより成績評価を行います。

［教科書］

藤田敬三・竹内正巳編『中小企業論〔第 4 版〕』有斐閣，1998 年.

［参考文献］

渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫『21 世紀中小企業論』有斐閣，2001 年.
その他、必要に応じて提示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地域経済論		秋学期集中	４単位	芝村　篤樹

［講義概要・学習目標］

日本近代都市の形成と展開について、戦後の高度経済成長期までたどる。そして、現代都市の諸問題を考えたい。その際に、主な対象となるのは大阪である。講義室を友人の交流・団欒の場と心得る諸君の入室を厳禁する。つまり、私語は禁止である。

［講義計画］

1．日本近代都市の形成
2．１９２０・３０年代の都市
3．都市における戦前と戦後
4．高度経済成長期の都市
5．現代都市の課題

［成績評価の方法］

夏休みレポート、講義時の小レポート、期末試験。
期末試験の比重は７０％程度

［教科書］

芝村　篤樹　著『都市の近代・大阪の２０世紀』（思文閣出版）

［参考文献］

必要に応じて指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
産業組織論		通　期	4 単位	前　鶴　政　和

［講義概要・学習目標］

本講義では、ミクロ経済学の知識を基礎として、産業組織論について学びます。

産業組織論とは、価格と費用の格差、技術革新の進展といったような市場成果の決定要因を、市場の構造、企業の行動、政策の影響などの側面から分析する学問です。本講義では、独占・寡占市場に関する分析を中心に取り上げていきます。

現代産業の構造、公共政策の意義、及び寡占市場における企業行動について理解してもらうことを目標としています。

［講義計画］

1．産業組織論の対象と方法
2．ミクロ経済学の復習
3．競争と独占の基礎理論
4．寡占
5．製品差別化と競争
6．参入と戦略的行動
7．協調行動と垂直的取引制限
8．直接規制政策

［成績評価の方法］

期末試験の成績で評価します。

［教科書］

新庄浩二編，『産業組織論』，有斐閣，1995 年．

［参考文献］

長岡貞男・平尾由紀子，『産業組織の経済学』，日本評論社，1998 年．
小田切宏之，『新しい産業組織論』，有斐閣，2001 年．

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
農業経済論		通　期	4単位	浦　出　俊　和

［講義概要・学習目標］

世界の農業情勢は、GATTウルグアイ・ラウンド農業交渉を経てWTO体制へと大きく変化しており、わが国の農業にも大きな影響を及ぼしている。わが国の農業が抱える問題を正しく理解するためには、農業の特質や実態に加えて、世界的な農業情勢を把握する必要がある。

本講義では、農業の経済現象を分析する上で必要な知識と理論について講義する。特に、後者については、ミクロ経済学の理論を用いて、様々な農業に関する経済現象を分析していく予定である。

本講義が目標とすることは、各自が農業の抱える問題を正しく認識し、その将来方向について自分の考えを述べることが出来るようになることである。

［講義計画］

・農業の特質
・経済発展と農業
・世界の農業問題
・途上国の食料問題
・先進国の農業保護政策
・GATTウルグアイ・ラウンドとWTO
・日本の農業政策と農業構造
・世界の人口と食糧問題

［成績評価の方法］

学期末試験の成績のみによって評価する。

［教科書］

特に指定しない。

［参考文献］

速水佑次郎・神門善久（著）『農業経済論』（岩波書店）
荏開津典生（著）『農業経済学』（岩波書店）
土屋圭造（著）『農業経済学』（東洋経済新報社）
堀田忠夫（編著）『国際競争下の農業・農村革新』（農林統計協会）

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
産業構造論		通　期	4 単位	義　永　忠　一

［講義概要・学習目標］

現代日本産業の当面する諸問題について、各産業分野で活躍されている第一線のエコノミストに最新の資料(情報)にもとづく講義をしていただく。

［講義計画］

［成績評価の方法］

1年間を4期に分け、各期最低1つのテーマについて、各講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらう。それらを総合して評価する。

［教科書］

指定しない。

［参考文献］

その都度指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
銀行論		秋学期集中	4 単位	中　野　瑞　彦

[講義概要・学習目標]

【講義概要】

銀行の基本的な機能を理解した上で、経済社会における銀行の役割を歴史的かつ実践的に検証する。特に、1980 年代以降の金融自由化と国際的な金融取引の拡大の中で、日本の経済政策と金融政策の変化に伴う邦銀の行動と、その経済的影響を考察する。

更に、バブル経済における経済金融政策と銀行の行動を検証した上で、バブル経済崩壊後の銀行の危機的状況について考察する。

【学習目標】

①実体経済と金融の関連、②今日の金融危機問題の二点につき正しく把握しうる知識の習得を目標する。

[講義計画]

以下の項目につき、講義を中心に銀行と金融機関を巡る問題点を探求する。

1. 銀行の仕組みと役割、金融政策における銀行機能の位置付け
2. 金利規制下での実体経済と銀行機能の関係
3. 金融自由化と銀行経営の変化、公的金融との区別化
4. リスク・マネジメントとしての銀行の役割
5. バブル期の金融政策と銀行行動、およびその実態経済への影響
6. バブル崩壊後の金融危機問題
7. ゼロ成長下での銀行機能のあり方と銀行経営の展望

[成績評価の方法]

試験による

[教科書]

津田和夫（著）「現代銀行論入門」（経済法令研究会）

[参考文献]

奥村洋彦（著）「現代日本経済論」（東洋経済新報社）
堀内昭義（著）「日本経済と金融危機」（岩波書店）
岩田規久男（著）「金融政策の経済学」（日本経済新聞社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
都市政策論		通　期	4単位	中村　征之

[講義概要・学習目標]

「都市は文明の容器である」という。それは人間の創造物であり、政治的、社会的、経済的な実に様々なシステムを備えている。しかし、単に生産と消費の場であることだけに、とどまっているわけではない。それは「器」の中で展開される多種多様な活動を総合、調整する公的な行為としての都市政策を欠いては存在しない。すなわち、都市の諸システムを管理する市民の「自治の営み」の場でもあるのだ。講義ではまず、そのような都市政策の諸機能を、市民の「共和的なもの」を実現する自治の構造の中から、論理的に把握することを求める。続いて、資本主義体制下における都市問題の発生構造に目を向け、その解決を図る「都市型政治」の足取りをたどり、今日的課題である地方自治の理解を深める。

[講義計画]

学生自身が自分の生活の場である空間に目を向け「都市とは何か」と、まず問を発し、そこから自らの課題を引き出し、その理解に向かう論理を用意する手助けをしたい。簡単なものでよいから、高校時代の世界史の教科書に目を通しておくことを勧める。

[成績評価の方法]

・ 2回の定期テスト、レポートで判断する。

[教科書]

・ 「都市の政治学」加茂利男　（自治体研究社）

[参考文献]

・ 「都市の論理学」マックス・ウェーバー（創元社）
・ 「都市の文化」ルイス・マンフォード　（鹿島出版会）
・ 「都市政策の思想と現実」宮本憲一　（筑摩書房）
・ 「近代の政治思想」福田歓一　（岩波新書）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
比較経済体制論		春学期集中	4単位	上野　勝男

［講義概要・学習目標］

「ソ連（ロシア）経済はどんなもの？」ときかれたら、少し勉強した諸君ならば次のように答えるだろうか。つまり、旧ソ連では企業活動の自由がなく、命令でがんじがらめに縛られ、消費者は選択の余地もなく、また商品はいつも不足していた。こうした「社会主義的計画経済」が行き詰まったために崩壊して、いまでは「体制転換」といわれて、西側と同じような「市場経済」＝資本主義のシステムへ移行しつつある途中だ、と。

たしかに「社会主義から資本主義への移行」というのはわかりやすい。でも、長引く不況、倒産、最悪の失業率、金融不安という状況にあるわたしたちの国日本も「市場経済」＝資本主義だということを思うと、少し考え込んでしまいませんか？。こんな矛盾だらけの資本主義が永遠に続くシステムなのか？、と。それに、社会主義とは、本来、資本主義の矛盾を克服する体制だったはずなのに、なぜソ連はあんなふうに崩壊したのか？。崩壊したのは本当に「社会主義」体制のためだったのか？等々。この講義では、こうした疑問をじっくり考えることを目標として、①社会主義とは本来どのようなものか、②わたしたちの生きる現代資本主義にとって社会主義はどのような意味をもつのか、③旧ソ連の経済体制をどう考えるか、④ロシア・東欧諸国で進行する「体制転換」をどう考えるかをポイントにしてすすめます。

［講義計画］

序　論　「比較経済体制論」とは？

第Ⅰ部　社会主義とは何か？

1．資本主義の本性とその矛盾
2．社会主義的将来の本質と発展
3．現代資本主義と民主主義

第Ⅱ部　ソ連経済史概説－「社会主義経済」だったのか？－

4．十月革命からネップ（新経済政策）の試みへ
5．ソ連型経済制度の成立
6．ソ連経済の構造と矛盾

第Ⅲ部　「体制転換」の虚像と実態

7．「体制転換」の十年
8．未来はどこに

［成績評価の方法］

資料プリントを頻繁に配布します。また、講義への出席をとくに重視します。試験・レポートなどとあわせて、総合的に成績を評価します。講義の進め方・評価方法を知る上で、第1回目の講義は必ず出席してください。

［教科書］

使用しません。しかし、右に示した重要な参考文献とともに、随時参考にすべき文献は指示します。

［参考文献］

E.T.ガイダール（上野ほか訳）『経済改革とヒエラルキー構造』（晃洋書房）
浅羽・瀧澤編著『世界経済の興亡200年』（東洋経済新報社）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
国際金融論		秋学期集中	4単位	一ノ瀬　篤

［講義概要・学習目標］

以下の順序及び内容で講義を進める。

（1）円高・円安
（2）固定相場制と変動相場制度
（3）国際収支
（4）為替相場

外為取引、為替相場変動、国際投資など国際金融に関する基本的知識を身につけることを目標とする。難しい理論は最小限にとどめ、関係業務に就いた際や日常生活で役立つように、制度や統計の見方など現実的な観点を大事にしたい。

［講義計画など］

ほぼ毎回、講義レジメを配布して、これに基づいて説明する。

国際金融は現実自体がこみ入っているので、何よりも分かりやすい講義を心がけたい。受講者には、教科書として指定した書物（重要な内容が、最も平易に書かれている）によって、予習や復習に心がけて頂くよう求めたい。理解度が倍増する。

抽象的理論以上に、制度や実務、歴史などにかんする知識の蓄積が重要な分野なので、勉強のし甲斐もあるし、努力に正比例して目標達成感も得やすいだろう。大学時代に、専門的知識を身につけよう！

［成績評価の方法］

短答形式で中間試験を行い、これと期末試験（論文式）の結果を等分に評価する。

［教科書］秦忠夫・本田敬吉『国際金融のしくみ』（有斐閣、新版、2002年）

［参考文献］

上川孝夫・藤田誠一・向寿一編『現代国際金融論』（有斐閣、1999年）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際経済論		秋学期集中	4単位	三　邉　信　夫

［講義概要・学習目標］

この講義では、国際経済学の基礎理論を解説する。国際経済学は、国際間における取引（trade）つまり貿易に関する事柄を研究対象としている。取引である限り最低2つの国（または2人）および2つの財貨の存在が必要である。貿易は両国間の効用関数の差異（つまり両国民の間の趣好の差異）があれば行われるが、その財貨が生産物である場合、生産関数が問題となる。財貨を生産する技術や生産要素、つまり労働や資本の要素賦存量の国際的差異を考えに入れなくてはならない。価値または価格という場合も生産物間の交換比率だけではなく、生産要素間の交換比率つまり要素価値比率（または分配率）および両者の間の関係が考慮されねばならない。さらにこれらの基礎的条件が変化した場合、具体的には、技術進歩や資本蓄積、労働人口の増加が行われたとき、交易条件やその国の生活水準に及ぼす影響なども分析される。

［講義計画］

1. 交換経済、オファー曲線、貿易利益
2. 均衡の安定性、マーシャル・ラーナーの安定条件
3. リカード比較生産費説と賃金決定
4. 商品交易条件と要素交易条
5. 生産論、等生産量曲線と生産可能曲線
6. 貿易方向の決定、ヘクシャー・オリーン理論、国の規模、技術進歩
7. 要素価格均等化、リプチンスキィ効果、ストルパー・サムエルソン理論
8. 国際貿易における双対関係
9. 比較生産費基準と所得弾力性基準
10. 経済成長と交易条件

交換経済、オファー曲線、貿易利益

［成績評価の方法］

試験、出席

［教科書］

三邉信夫（著）「国際貿易と経済成長理論」（大阪市立大学経済学会）

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ヨーロッパ経済論		通期	4単位	棚池康信

［講義概要・学習目標］

この講義ではヨーロッパの経済統合（EU）につい論じてゆく。EUは共通通貨ユーロの紙幣とコインが発行され、従来の国民通貨はすでに姿を消している。この共通通貨の導入は、ヨーロッパ各国の市場が一体化し、ヨーロッパ企業がヨーロッパ市場を単一のものとして行動しつつあることが前提となっている。また、経済政策も多くの分野で共同体やECB（欧州中央銀行）に権限が移されている。このようにEUは経済統合の面ではきわめて高い段階に到達しており、さらにそのディメンションは政治統合から、市民的統合の側面を加えつつある。また、中東欧諸国を中心に加盟国の増加が予定されており、ヨーロッパの一体的空間は今以上の経済的・政治的重要性をもつことになる。このようなヨーロッパ経済統合の現状を理解することがこの講義の課題である。ユーロを導入したヨーロッパ経財の現状は実に興味深いが、単なる現状理解にとどまらず、統合の歴史的過程と国際経済環境の中に、EU経済の現状を立体的に位置付けることを目標とする

［講義計画］

前期　市場統合とユーロの導入

1．国際経済学とヨーロッパ経済論
2．市場統合の論理と現実
3．市場統合と地域政策
4．市場統合と経済通貨同盟
5．92年市場統合
6．マーストリヒト条約とEU
7．ユーロの導入階
8．経済通貨同盟の機能と運用

後期　経済通貨同盟のディメンション

1．92年市場統合の意義
2．単一欧州議定書
3．統合の再出発と地域政策
4．市場統合と域内貿易・直接投資
5．経済通貨同盟段階の共同市場
6．市場統合の現状
7．市場統合とEU経済の構造改革
8．ユーロ導入後のEU経済

［成績評価の方法］

前期･後期末の試験によるが、経過によっては授業中の小テストを実施する。

［教科書］

棚池康信『EUの市場統合』晃洋書房

［参考文献］

田中素香他『現代ヨーロッパ経済』有斐閣
島野卓爾他編『EU入門』有斐閣
清水貞俊『欧州統合への道』ミネルヴァ書房
内田勝敏・清水貞俊編著『EU経済論』ミネルヴァ書房

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
アメリカ経済論		通　期	4単位	中本　悟

［講義概要・学習目標］

本講義は、現代アメリカ経済の構造と発展について、いくつかの領域に分けて講義する。アメリカ経済において生じたことは、遅かれ早かれ日本においても生じてきた。

しかし、アメリカで生じたことが同じ形で日本やアジアで生じているわけではない。アメリカにはアメリカ固有のイデオロギー、行政機構、経済法、経済制度があり、日本やヨーロッパとは異なった形態で問題が生じ、したがってまた異なった解決がなされることが多い。こんにちの主流派の経済理論がアメリカ経済を土台として書かれており、この意味では、日本ならびにアジア経済の研究を土台に経済理論の創造的発展が求められていることも、本講義を通じて理解できよう。本講義では、それぞれの主題について、問題の構造と歴史的展開、現状、政策課題について解明する。またアメリカ経済の比較制度的な研究を重視するアプローチで講義する。本講義によって、アメリカン・エコノミック・スタンダードを知ることは、日本経済の改革を考える上でも有意義である。

［講義計画］

講義は、概ね国内経済を前期に、対外経済関係を後期に、それぞれ行う。各主題とも２回程度の講義である。

Ⅰ部アメリカン・スタンダードの基本構造
①産業構造と企業経営
②多国籍企業とアメリカ経済
③軍産複合体とハイテク産業
④農業とアグリビジネス
⑤金融市場の発展と金融革新
⑥財政制度と財政政策
⑦労働市場の変容
⑧「ニューエコノミー」論の検討

Ⅱ部アメリカン・グローバリズム
⑨アメリカの貿易構造
⑩国際通商法と国際貿易体制
⑪貿易匡正法と通商政策
⑫多国籍企業と通商政策
⑬ＮＡＦＴＡとアメリカ経済
⑭日米貿易摩擦の歴史と現状

［成績評価の方法］

夏休み明けのレポートと年度末の筆記試験を総合的に判定する。

［教科書］

前期は、レジュメと資料に基づいて講義する。後期は、中本　悟『現代アメリカの通商政策』（有斐閣）を利用する。
テキスト通りに講義するので、事前に購入しておくこと。

［参考文献］

横田　茂編『アメリカ経済を学ぶ』（世界思想社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
中国経済論		春学期集中	4単位	厳　善平

［講義概要・学習目標］

日本では中国関連の情報が溢れるほど多い。日中間の経済交流をはじめ様々な側面における両国間の相互依存関係がますます強まっている。にもかかわらず、中国が遠い隣国だという親近感を持たない日本人は依然として多い。どうしてこうなったのだろうか。この講義では、そうした疑問を念頭におきながら、中国そして日中関係に対する客観的な理解を深めるための情報や分析を提供していく。

過去20余年、中国は内部の体制改革と対外開放を国策に掲げ、経済の発展をすべての政策の中心に据えた。その結果、年平均10％近くの経済成長が遂げられ、世界経済における存在感が著しく高まった。日本を含む世界各国との様々な関係が一層緊密化している。しかし一方では、急変する中国社会の中には多くの問題や矛盾も目立っている。

本講義では、現代中国経済の仕組み、成長と構造変化のダイナミズムについて、現地調査の生の情報やドキュメンタリーの映像資料を活用しながら、分かりやすく説明する。まず中国社会主義経済の成立→運営→改革の軌跡を簡単に触れる。次に中国経済の市場化改革と国際化の現状を説明し、世界の工場まで成長した中国の主要産業の実力を明らかにする。最後に世紀を跨ぐ難題である中国の農民・国家関係、都市・農村の格差問題、食料問題などについて解説し、国民国家への移行の可能性について展望する。

［講義計画］

Ⅰ　毛沢東時代の中国経済
1．中国社会主義経済の成立から改革までの軌跡――社会主義的改造
2．経済の成長メカニズム――農工関係の政治経済学
3．社会経済の基本的仕組み――国営企業、人民公社
4．社会主義計画経済を支えた制度装置――戸籍制度、食管制度等

Ⅱ　鄧小平時代の中国経済
1．経済体制改革のプロセスとパフォーマンス――漸進的改革が良かったか
2．世界の工場としての中国――経済の国際化はどこまで進んだか
3．市場経済化を推進する主役達――郷鎮企業と私営企業はいかに生成、成長したか
4．「均富論」から「先富論」への方針転換とその結果――格差はどう見るべきか
5．人口・食糧・資源・環境問題のいま――持続可能な成長を制約するものは何か
6．「農民国家」の行方――都市・農村格差は解消するか

［成績評価の方法］

中間レポート＋期末試験

［教科書］

厳　善平『現代中国経済シリーズ２　農民国家の課題』名古屋大学出版会

［参考文献］

朱建栄ほか編著『最新教科書・現代中国』柏書房　1998年
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社　2000年
関連資料の随時配布を行う。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
スポーツ文化論		秋学期集中	4単位	松浦道夫

[講義概要・学習目標]

まず、現代社会の特徴と体育・スポーツの発展、関係を概観します。そしてその背景の思想・精神・文化を探り、スポーツとの関連を考察します。とくに日米英の文化をスポーツを通して比較してみます。いいかえれば、スポーツ文化論を通して、集団としての人間、社会を理解することをねらっています。

[講義計画]

1. 現代の体育・スポーツ
2. 近代イギリススポーツ小史
3. イギリススポーツと社交の精神
4. スポーツ教育とギャンブルスポーツ
5. アメリカスポーツ小史
6. アメリカスポーツとメンバーチェンヂの思想
7. プロスポーツ発展の意味するもの
8. 近代日本のスポーツ小史
9. 日本スポーツの勝敗感
10. 国際化と日本的スポーツの変化

[成績評価の方法]

適宜エッセイを課し、学年末テストと合わせて評価します。

[参考文献]

授業の進行に合わせて知らせます。

[教科書]

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
情報システム論 （旧 経済学特講（情報システム論））		通期	4単位	芦田昌也

[講義概要・学習目標]

社会の基盤施設や経済活動の必須の道具から、個人の情報活動の文房具にいたるまで、情報システムは、私たちの生活に深く入り込んでいる。この講義では、こうした情報システムを開発する側の観点と、利用する側の両方の観点から考察していきたい。

まず、前半部では、情報システムの一般的基礎知識に関して講義する。可能なかぎり、最先端の情報技術の動向についても紹介をしていきたい。後半部では、特にデータベースシステムに焦点をあてながら、情報システムの効率的な設計と管理運用について講義する。

[講義計画]

1. システムとは
2. 情報システムとは
3. 情報システムの利用形態
4. 情報システムの実例
   - 社会・金融システム
   - 製造業・流通業システム
5. 情報システムの変遷（EDP から SIS まで）
6. 情報システム技術
   - プロセッサ、記憶装置、周辺装置
   - ヒューマン・インターフェイス
   - ネットワーク、セキュリティ
7. 情報システムの設計と管理
8. 情報システム技術の将来展望
9. データベースとは
10. データモデル（階層型・ネットワーク型・関係型）
11. データベースの設計
12. 関係データベースと SQL
13. データベースシステムの基本構成
14. データベース管理システム（定義機能・操作機能）
15. 分散型データベースと集中型データベース
16. 情報検索システムの実現と効率化
17. インターネットの情報収集方式（ロボットサーチなど）
18. インターネットの情報検索方式（全文検索、わかち書きなど）
19. 情報システムの将来

[成績評価の方法]

試験の結果により成績を評価する

[参考文献]

必要な資料は別途配布する

[教科書]

情報処理システム入門 [第2版]
浦 昭二・市川照久 共編
サイエンス社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
データベース実習		春学期	2単位	初　瀬　慎　一

[講義概要・学習目標]

本講座では、まずMicrosoft Access を用いてデータベースを作成し、リレーショナルデータベース全般の基礎的概念、構築・運用の実際を学ぶ。次いで本学の教育研究用サーバに構築されているRDBMS環境を利用して、SQLによるデータベース検索を行う。

さらに、Webサーバとの連携で簡易データベース機能を持つホームページの作成を行う。

[講義計画]

1. Microsoft Access の操作の基本
2. データ型の決定、入力・出力・検索フォーマットの決定
3. データ入力、Excelなどからの読み込みとトランザクション処理
4. データベース検索
5. データファイルの追加とリレーショナル処理
6. PostgreSQLの基本操作
7. SQL言語によるデータ検索
8. WWWサーバーとCGIによる簡易データベースの作成

[成績評価の方法]

提出レポートの評価を中心に実習成果との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

[教科書]

開講時に指示する。

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ネットワーク論	01	春学期	2 単位	中　崎　修　一

[講義概要・学習目標]

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されており、新しいコミュニケーション手段としても認知された。また、ネットワーク構築・運用に関する知識は様々な分野で求められるようになった。

本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に現在および今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークとの関係の理解を深めることを目的とする。また、ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、更には新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

[講義計画]

1. 現代社会とコミュニケーション手段の変化
2. 情報通信ネットワークとは
3. ネットワーク基礎知識
4. クライアントサーバシステム
5. ネットワーク構成詳細
6. WWWとその活用
7. ネットワーク・セキュリティと信頼性
8. 様々なサービス
9. ネットワーク構築手法
10. 現代社会とネットワーク
11. 今後のネットワーク事情について
12. まとめ

[成績評価の方法]

出席、レポート、筆記試験から総合的に判断する。

[教科書]

長坂康史著『情報がひらく新しい世界④　情報通信ネットワークとＬＡＮ』（共立出版）
ＩＳＢＮ４－３２０－０２９６６－６

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ネットワーク論	０２	春学期	2単位	初　瀬　慎　一

［講義概要・学習目標］

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識はさまざまな分野で求められるようになった。

本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に現在および今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、さらには新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

［講義計画］

1. 情報通信ネットワークとは
2. インターネット
3. ネットワーク基礎知識
4. クライアントサーバシステム
5. ネットワーク構成詳細
6. WWWとその活用
7. 安全性と信頼性
8. さまざまなサービス
9. ネットワーク構築手法
10. 現代社会とネットワーク
11. 今後のネットワーク事情
12. まとめ

［成績評価の方法］

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

［教科書］

開講時に指示する。

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ネットワーク実習	０１	秋学期	２単位	中　崎　修　一

［講義概要・学習目標］

近年、ネットワーク技術の進歩やインターネット、イントラネットの普及により、コンピュータとネットワークは切り離せないものとなった。また、インターネットの利用が普及する中、膨大な情報の中から目的の情報を探し出すことのできる能力は重要である。

本演習では、コンピュータ・ネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの構築と利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、特にセキュリティ面を重視しての現状や問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を実習によって目指す。

その利用の中で、ただ単に利用するだけではなく、常に問題意識を持ってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

［講義計画］

1．コンピュータ・ネットワークとは
2．LAN、インターネット、ネットワークの構築
3．ネットワークを活用した情報収集
4．ネットワーク技術の基礎
5．通信プロトコル
6．インターネット詳細
7．様々なネットワーク上のサービス、コミュニケーション
8．HTML、XML、JAVA
9．ネットワーク・セキュリティ
10．現在のネットワークの問題点、解決策
11．今後のネットワーク事情について
12．まとめ

［成績評価の方法］

出席、課題提出、筆記試験から総合的に判断する。

［教科書］

必要に応じて資料配布予定。

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ネットワーク実習	０２	秋学期	2単位	初　瀬　慎　一

［講義概要・学習目標］

近年、ネットワーク技術の進歩やインターネット、イントラネットの普及によりコンピュータとネットワークは切り離せないものとなった。また、インターネットの利用が普及する中、膨大な資料の中から目的の情報を探し出せることのできる能力は重要である。

本演習では、コンピュータ・ネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、現状や問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を目指す。その利用の中で、ただ単に利用するだけでなく、常に問題意識をもってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

［講義計画］

1. コンピュータ・ネットワークとは
2. インターネット
3. ネットワークを活用した情報収集
4. ネットワーク技術の基礎
5. 通信プロトコル
6. インターネット詳細
7. さまざまなネットワーク上のサービス
8. HTML, XML、JAVA
9. ネットワークの安全性
10. 現在のネットワークの問題点、解決策、セキュリティ
11. 今後のネットワーク事情について
12. まとめ

［成績評価の方法］

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

［教科書］

開講時に指示する。

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
マルチメディア論	01	春学期	2単位	平井　尊士

［講義概要・学習目標］

今日、世界でやりとりされる主な伝達方法は、郵便、新聞、電話、テレビ、インターネットと様々である。これらのメディアは自然環境と同じくらい巨大な存在となり、それらを通じて提供される情報は、情報化社会（人間生活）において必要不可欠の要素となっている。こうした意味において、現代はメディア統合の時代といえる。

そこで本講義においては、メディアとソフトウエア、表現、環境はどのような関連をもつのか、「Microsoft Office 2000」などの既存のソフトを利用し、基礎理論（図形処理や画像処理）を学習することにより、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力を発揮できるようになることを期待している。

また、メディアを取り巻く技術の進展の早さゆえに、メディアに関する研究は、過去を捨て去ってきた傾向が見受けられるため、歴史を振り返りつつ、メディアを取り巻いてきた社会制度の整備についても学習する。

［講義計画］

1．マルチメディア概論（特徴と利用方法）
　1）マルチメディアの現在
　2）各マルチメディアとインターネット
2．ソフトウエアとメディア
3．表現とメディア（「Microsoft Office 2000」等の利用）
　1）電子化技術の追求
　2）メディアとしての仮想現実空間
　3）メディアとリアリティ（公共媒体と広告媒体）
　4）図形表現とその演習
　5）画像表現とその演習
4．環境とメディア
　1）メディアと環境
　2）メディアと歴史
　3）メディアと倫理（ことばの暴力）
　4）関連法規との関連
5．まとめ：マルチメディアの意義

［成績評価の方法］

計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する

［教科書］

長尾真・安西祐一郎『マルチメディア情報学の基礎』（岩波書店　1999）

［参考文献］

志保田務・平井尊士編著『情報活用術』（学芸図書　1999）
海野敏・影浦峡・戸田慎一『学術情報と図書館』（雄山閣　1999）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
マルチメディア論	０２	春学期	２単位	水口　薫

［講義概要・学習目標］

今日、世界でやりとりされる主な情報伝達方法は、郵便、新聞、雑誌、電話、映画、テレビ、CM、インターネットと様々である。これらのメディアは自然環境と同じくらい巨大な存在となり、それらを通じて提供される情報は、情報社会（人間生活）において必要不可欠の要素となっている。こうした意味において、現代はメディア統合の時代といえる。

それは単なるコンピュータの発達、変化ではなく、メディアのコンテンツがネットワーク上で融合することを意味しており、情報・通信産業あるいは人間社会にまで大きな影響を与えている。

本講義では、メディアとソフトウェア、表現、社会、環境はどのような関連をもつのか、その基礎理論、歴史、現状を学習することにより、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力、メディア・リテラシーを身に付けることを目的とする。

［講義計画］

1．メディア（媒体）とは
　1）メディアの歴史
　2）メディアと社会環境
　3）メディア・リテラシーとは
　4）メディアと倫理、関連法規
2．表現とメディア
　1）ハードウェアとソフトウエア
　2）マルチメディアの現在
　3）ネットワーク社会（インターネット）
3．マルチメディアの意義と問題点
　1）メディアとしての仮想現実空間
　2）メディアとリアリティ（公共媒体）
　3）メディアとリアリティ（広告媒体）
4．まとめ

［成績評価の方法］

出席を兼ねた小テスト（適時）、定期試験と出席点で総合評価

［教科書］

特になし。適時、プリントを配布。

［参考文献］

「メディア・リテラシー　マスメディアを読み解く」
カナダ・オンタリオ州教育省（編）（リベルタ出版）
ＦＣＴ（市民のテレビの会）（訳）
その他、講義の時に提示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
マルチメディア実習	01	秋学期	2単位	平井　尊士

［講義概要・学習目標］

今日、情報化社会において知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造性が強く求められる。特に、情報の電子化技術の中で、マルチメディアなどのメディアが進展する中で、デジタルコンテンツを有効に活用するとともに研究者や技術者自らが外に向かって情報を発信するための作成技術を身に付ける事が必要になっている。

そこでメディアを発信していく際の基礎的な知識から応用技術について取り上げ演習する。具体的には、コンピュータを利用したメディアの活用方法を、各種メディアの現状、特性、活用などの観点から、情報メディアについて基礎能力（図形処理や画像処理）を習得する中で、学生がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるようにするために学習活動の充実に努める。あわせて、関連法規、倫理についても学ぶ。ただし、マルチメディアについて学習させるときには、単に技術的に各メディアの技術ばかりに深入りしないようにも注意を払う。

［講義計画］

1．マルチメディア概論（特徴と利用方法）
　1）マルチメディア概論
　2）各マルチメディアの利用方法
　3）学校における情報環境
2．ソフトウエアを選択して、メディアの表現や発信
　1）デジタルコンテンツの作成方法（ブラウザベース）
　2）印刷物の電子化技術
　3）デザイン技法とのかかわり
3．モデル化とシュミレーション（作品作成）
　1）モデル化
　2）マルチメディア作成技法（図形処理、画像処理）
4．シュミレーション　（表現方法の工夫・情報の統合）
　SGML XML の処理演習と活用事例
5．マルチメディアと周辺領域の関連
　1）情報検索およびデータベースとマルチメディア
　2）関連法規、倫理との関連
6．まとめ

［成績評価の方法］

計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する

［教科書］

長尾真・安西祐一郎『マルチメディア情報学の基礎』（岩波書店　1999）

［参考文献］

志保田務・平井尊士編著『情報活用術』（学芸図書　1999）
海野敏・影浦峡・戸田慎一『学術情報と図書館』（雄山閣　1999）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
マルチメディア実習	02	秋学期	2単位	水口　薫

［講義概要・学習目標］

今日、情報社会・人間生活においてコンピュータ、ネットワークの発達は目覚しいものがある。文字データだけであったものが画像（静止画、動画）音声データを処理できるようになってきた。それらを通じて提供される情報は、社会の変革をもたらすほどの影響力を持ち、またそれらを扱う能力、メディア・リテラシー（メディアの読み取り、書く能力）は、必要不可欠の要素となってきている。

本講義では、メディア統合、情報・通信時代のそれぞれのメディアの特性、基礎理論を理解し、表現手段として活用できる能力、また単にメディアコンテンツが作れるというだけでなく、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力を実習で身に付けることを目的とする。

［講義計画］

1．マルチメディア概論
　1）マルチメディア概論
　2）マルチメディアの利用方法
　3）ソフトウェアとハードウェア環境
2．デジタルコンテンツの作成方法とメディア表現
　1）静止画（デジタル・カメラ）撮影
　2）静止画作成・編集（フォトショップ）
　3）動画（ビデオ・カメラ）撮影
　4）動画作成・編集（プレミア）
3．マルチメディアと周辺領域
　1）インターネット
　2）データベース
　3）関連法規、倫理との関連
4．まとめ

［成績評価の方法］

実習と出席点で総合評価

［参考文献］

「メディア・リテラシー　マスメディアを読み解く」
その他、講義の時に提示する。

［教科書］

特になし。適時、プリントを配布。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
情報と職業		通　期	4単位	田村　昶三

［講義概要・学習目標］

講義概要
情報化の進展に伴い，さまざまな影響が社会に及んでいる。これらの影響を多角的に理解することが本講義の目的である。情報産業の現状を把握するとともに，職業としての情報分野における課題について考える。情報分野で「働く」ことの倫理や勤労観についても考究する。併せて、職業選択と職業指導についての方法論を実践する。　4部構成とする。
第1部　情報化社会の進展と職業
第2部　情報ビジネスと職業
第3部　職業としての情報教育
第4部　情報化ビジネスと個人

学習目標とゴール
高校生がITを利用するに必要な知識、技術、倫理の理解を深める。同時に情報分野への就職希望者を職業指導ができる。
1）ITの発達と現状と今後の課題が理解出来る。
2）近年の職業・労働の変化の特徴が理解出来る。
3）ITの発達と職業・労働の変化の関係について述べることができる。

［講義計画］

第1部　情報化社会の進展と職業
1　情報化の進展と社会に対する影響。産業構造の変化。意識構造の変化。
2.　職業と情報リテラシー　　3情報伝達手段の変遷と職業の変化。
4. 情報化社会に於ける安全性の問題
第2部　情報ビジネスと職業
5.　情報産業の現状と課題　　6. 企業と情報システムの現状と今後の課題
7.　情報分野における職業倫理・勤労観　　8. 情報分野における人材需要
9.　情報分野における人材育成（マネジメント、戦略、コントロール）
10.　情報分野の労働問題と解決策
第3部　職業としての情報教育
11. ITの概念とそのシステム　　12. ITの進展を理解する知識
13. オペレーション能力とリタラシー　　14. 職業倫理の確立
15. . 情報化社会に於ける職業選択
第4部　情報化ビジネスと個人
16. 求める人材の変化　　17. コンピュータリタラシー
18. 情報化ビジネスと生きがい　　19. 情報化分野に於ける職業選択
20. ベンチャー起業を起こす条件　　21. 就職活動における情報収集と準備
22. 資格取得と社会的な認知　　23. まとめ

［成績評価の方法］
1. まず、出席。独自性のある考え方や見方を身に着ける。
2. 節目にはリポートの提出をする。
3. 期末試験。　等の三項目の総合点により評価する。

［参考文献］
講義に関する参考資料を都度わたす。

［教科書］
教材は、毎週プリントで配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学基礎講義 社会学の基礎理論と社会的現実	０１ ０４	春学期集中 秋学期集中	４単位 ４単位	鈴　木　富　久

［講義概要・学習目標］

社会学があつかう問題は、すでに各人の日常社会生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の学習によって、これが見えてくる。そこで前半では、「人間とは何か」という問題の考察を出発点にして、行為・社会関係・社会構造・文化・社会規範・組織・集団・社会化・国家・市民社会、等々の社会学の基礎概念を講じ，併せて新旧の代表的社会学者の諸理論の学習を課す。後半は、歴史的現実の次元に移って世界社会学の視野から現代日本社会を主題とし、その近代化過程の特徴と現在の体制的・構造的全体像、さらに、そこに内包される諸問題へと講義を展開する。後期は、ビデオや新聞・統計資料等を多用する。

学習目標は、社会学の視野や方法論，基礎知識の獲得、それを通じた学問的な探究と思考のスタイルの習得、さらに現実社会の諸問題への学的関心の喚起にある。この目標達成のため、レポート・感想文等の提出物が多いし、講義内容はやや高度である。欠席を避け、最初から真剣な態度で受講に臨むことが必要である。

［講義計画］

序．社会学とは何か
第Ⅰ部　基礎概念
§１．社会的存在としての人間
§２．行為と文化・社会規範
§３．組織と集団
§４．「社会化」と国家
＊併行して『人間再生の社会理論』を各自読む（各章感想文提出）

第Ⅱ部．世界社会学の視野と現代日本社会
§１．世界システム論と日本
§２．日本の近代化過程
§３．戦後日本社会の展開（ビデオ併用）
＊ビデオ感想文提出
§４．現代日本社会の形成と構造

［成績評価の方法］

①試験成績、②レポート成績（読書・ビデオ感想文等）、③出席点、等を総合して評価する。

［教科書］

鈴木富久『社会学講義ノート』
小林・大関・伊藤・鈴木・竹内『人間再生の社会理論』創風社

［参考文献］

松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社
見田宗介『現代社会の理論－消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書
宮本常一『忘れられた日本人』（岩波文庫）岩波書店
ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』（上・下）岩波書店
ウォルフレン『日本・権力構造の謎』（上・下）早川書房（文庫版あり）
渡辺治・後藤道夫編『講座・現代日本』全４巻、大月書店
浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣
（その他、古典や基本文献を含め、教科書『社会学講義ノート』132-133 頁を参照）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学基礎講義	０２	春学期集中	４単位	竹内　真澄

［講義概要・学習目標］

「基礎講義」とは、社会学部に入った新入生のための、スタートラインになるべき科目である。ここで、学習のゴールのようなものを示すならば・・・。

第一に、この学問の入り口でもっとも大切なことは、世界や社会や時代の変化に新鮮な驚きを感じ取ることである。

第二に、これと表裏一体になっていることであるけれども、社会にすでに深く入り込んでしまっている自分とか身の回りの人々が、実は、とても謎めいた存在だということを発見する能力を身につけることである。人間というものが、謎めいた社会性をもっているということを突き放して見る力といってもよい。

第三に、自分と他人に関心をもつこと。自分を知るためには、社会（他人）を見るしかないし、社会（他人）を知ろうとすれば、自分を突き放していなければ見えない。

第四に、以上のことを、本当に君自身の経験によって、また、身の切れるような痛覚とともに、すごい違和感を伴って味わいとらてほしい。

たぶん、これらはとても原理的なことなのだと思う。これらの感覚を持てるようになれば、あとはおのずと「社会学的」に歩いていけるようになるはずだ。

［講義計画］

＜前半＞時間や空間を変えてみると、人間の生活、思考様式、感覚、などが変わりやすいものだということがわかるだろう。このことをできるだけ具体的に扱う。

そのために、いろいろな事柄を比較する。北欧と日本、１９６０年代と現在、人種、本土と沖縄、男性と女性、共同体と市民社会、バラバラな個人と連帯する個人などである。これらをつうじて私が主張したいのは、人間が非常に不確かで、移ろいやすいものだということ、しかし、同時に一旦安定すると、変化を恐れて保守化し、時には、新しい存在を敵視するようにさえなるということである。

＜後半＞現在の社会が直面するいろいろな社会問題を解明し、その問題がなぜ、どこから発生するか、解決のためにはなにが必要かを探る。現代の貧困、働き方の問題、過労死、失業、自殺、近代化、階級と階層、自分のものとは思えない人生を生きる辛さ、などである。

［成績評価の方法］

出席、毎回の感想、時折課すかもしれないレポート、学期末テスト等から総合的に判定。

［教科書］

なし

［参考文献］

吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波書店
渡辺治『日本の大国化は何をめざすか』岩波書店
広井良典『定常型社会』岩波書店
見田宗介『現代社会の理論』岩波書店
阿波根昌鴻『命こそ宝　沖縄反戦の心』岩波書店
ポール・ウィリス『ハマータウンの野郎ども』ちくま学芸文庫
熊沢誠『女性労働と企業社会』岩波書店
小池直人『デンマークを探る』風媒社
ハワード・ジン著竹内真澄訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房
福島清彦『ヨーロッパ型資本主義』講談社現代新書

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学基礎講義	０３	春学期集中	４単位	宮本　孝二

［講義概要・学習目標］

社会学は家族から国際社会に至るまでの広範な社会現象を対象とする。この社会学基礎講義では、これから社会学を本格的に勉強する社会学部1年生に、社会学の基礎知識と、社会学的分析の基本的方法を習得してもらうことを目的としている。

これまでの社会学の歴史には、多くの有名な社会学者が登場し、多大な研究成果を残してきており、現在も実に多数の社会学者が研究成果を蓄積しつつある。この講義では、それらの中から、基本となるものを精選し、体系的な構成のもとで順次紹介・説明する。

まず、どのような社会現象にも存在する人間（パーソナリティと行為）と社会関係（相互行為、地位・役割）を把握する視点を提示した上で、家族、地域社会、職場・組織集団などの基本的な社会生活の場、政治や経済や文化などの社会領域、不平等問題や環境問題や犯罪問題などの社会問題について、基本となる情報と分析視点・方法を紹介する。さらに問題解決と並ぶ社会学の焦点である多様な文化現象の意味解読についても、可能な限り多くの具体例を取り上げ、社会学的分析の実践例を提示したい。

［講義計画］

1　社会学とは何か：社会学の歴史と現在
2　パーソナリティと社会化
3　行為と相互行為：社会の基本構成
4　家族：現代家族の変容と問題
5　地域社会：コミュニティの諸相
6　職場と組織集団：組織論の展開
7　階級・階層：人々の分類と不平等
8　経済：産業化、グローバル化、情報化
9　政治：パワーとコンフリクト
10　教育：学校教育の機能と逆機能
11　科学技術：リスク社会の成立
12　宗教：世俗化と脱世俗化
13　逸脱：価値規範と犯罪・非行
14　文化の諸相：意味解読の社会学

以上の内容を、補足も含めて順次約25回で講義する。

［成績評価の方法］

講義時間内に配布する内容まとめの空欄埋めプリント提出状況（出席点）と、期末テストの成績によって総合的に評価する。

［教科書］

倉橋重史・丸山哲央編『社会学の視点―行為から構造へ』（1987年、ミネルヴァ書房）

［参考文献］

その都度指示する。

社会 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会調査Ａ	０１	秋学期	２単位	木下　栄二

［講義概要・学習目標］

社会学の学習には、理論の習得とともに、データ収集の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。この授業では、《社会調査入門》をめざして、その意義、種類や基本的な技法の解説を行なう。

なかでも、マスメディアなどで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得、および、社会学の各専門分野に共通の分析視角（集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる）の獲得を重視したい。

それは、専門演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、きっとつながるはずである。

［講義計画］

Ⅰ 社会調査の論理
1　社会調査の意義とその歴史
2　先行研究・調査データへのアクセス
3　社会学と社会調査――「変数」と「仮説」――

Ⅱ 量的調査の方法
1　数字で現実をみることの意義
2　数字からみる現実の見方（クロス表等を読み解く）
3　サンプリングという発想とその方法

Ⅲ 質的調査の方法
1　「観察」と「聞き取り」の意義
2　モノグラフを読む
　――『ストリート・コーナー・ソサエティ』ほか――
3　フィールドワークの技法

［成績評価の方法］

出席状況と筆記試験、および課題の提出状況を総合して評価する。（なお、詳細については最初の授業にて説明する）

［教科書］

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房（生協にての一括購入）

［参考文献］

・谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文春新書
・森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社
・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社
ほか、授業時に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会調査A　(旧社会調査)	02	春学期	2単位	過　放

［講義概要・学習目標］

社会学の学習には、理論の習得とともに、データ収集の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。この授業では、《社会調査入門》をめざして、その意義、種類や基本的な技法の解説を行なう。
なかでも、マスメディアなどで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得、および、社会学の各専門分野に共通の分析視角（集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる）の獲得を重視したい。
それは、専門演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、きっとつながるはずである。

［講義計画］

I 社会調査の論理
1 社会調査の意義とその歴史
2 先行研究・調査データへのアクセス
3 社会学と社会調査―「変数」と「仮説」―

II 量的調査の方法
1 数字で現実をみることの意義
2 数字からみる現実の見方（クロス表等を読み解く）
3 サンプリングという発想とその方法

III 質的調査の方法
1 「観察」と「聞き取り」の意義
2 モノグラフを読む
―『ストリート・コーナー・ソサエティ』ほか―
3 フィールドワークの技法

［成績評価の方法］

出席状況と筆記試験、および課題の提出状況を総合して評価する。
（なお、詳細については最初の授業にて説明する）

［教科書］

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

［参考文献］

・谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文春新書
・森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社
・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社
ほか、授業時に指示する

社会 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会調査A　(旧社会調査)	03	春学期	2単位	木下　栄二

［講義概要・学習目標］

社会学の学習には、理論の習得とともに、データ収集の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。この授業では、《社会調査入門》をめざして、その意義、種類や基本的な技法の解説を行なう。
なかでも、マスメディアなどで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得、および、社会学の各専門分野に共通の分析視角（集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる）の獲得を重視したい。
それは、専門演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、きっとつながるはずである。

［講義計画］

I 社会調査の論理
1 社会調査の意義とその歴史
2 先行研究・調査データへのアクセス
3 社会学と社会調査――「変数」と「仮説」――

II 量的調査の方法
1 数字で現実をみることの意義
2 数字からみる現実の見方（クロス表等を読み解く）
3 サンプリングという発想とその方法

III 質的調査の方法
1 「観察」と「聞き取り」の意義
2 モノグラフを読む
――『ストリート・コーナー・ソサエティ』ほか――
3 フィールドワークの技法

［成績評価の方法］

出席状況と筆記試験、および課題の提出状況を総合して評価する。
（なお、詳細については最初の授業にて説明する）

［教科書］

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房
（生協にての一括購入）

［参考文献］

・谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文春新書
・森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社
・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社
ほか、授業時に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会調査A　（旧社会調査）	04 05	春学期 春学期	2単位 2単位	竹中英紀

［講義概要・学習目標］

社会学の学習には、理論の習得とともに、データ収集の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。この授業では、《社会調査入門》をめざして、その意義、種類や基本的な技法の解説を行なう。

なかでも、マスメディアなどで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得、および、社会学の各専門分野に共通の分析視角（集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる）の獲得を重視したい。

それは、専門演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、きっとつながるはずである。

［講義計画］

I 社会調査の論理
　1 社会調査の意義とその歴史
　2 先行研究・調査データへのアクセス法
　3 社会学と社会調査――「変数」と「仮説」――
II 質問紙調査の方法
　1 質問文の作成
　2 サンプリングの方法
　3 調査実施のプロセスとデータ化作業
　4 データの集計と分析
III 質的調査の方法
　1 「観察」と「聞き取り」の意義
　2 モノグラフを読む
　――『ストリート・コーナー・ソサエティ』ほか――
　3 フィールドワークの技法

［成績評価の方法］
出席状況と筆記試験の成績を総合して評価する。

［教科書］
大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

［参考文献］

・谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文春新書
・森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社
・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社
ほか、授業時に指示する。

「社会学科基礎演習」について

社会学部教授会

1992年度より社会学部社会学科新入生を対象に開講されたこの「社会学科基礎演習」は、社会学部教員によって質疑応答可能な少人数クラスのゼミナール形式で運営される。そこでは、特定のテーマを選択し、それを研究するさまざまな方法や、その結果を報告したりレポート・論文に作成したりする基礎的な方法について指導をうけることになる。すなわち以下の４つの項目である。

① テーマの発見　：社会的現実への興味関心なくして社会学部の勉強はできない。現実の中に問題を発見する方法がまず学ばれねばならない。

② 情報収集　：特定テーマについて研究するのに必要な情報を探し収集する方法は、そのテーマに応じて多種多様である。情報源の種類は、単行本、雑誌、新聞などの活字メディアはもちろん、映像・音声メディアと多彩であり、さらには現場・現地における観察やインタビューや体験などもある。それらの情報を効率よく正確に探索し発見し入手する方法について学ぶ。

③ 情報解読　：収集された多種多様な情報は解読され整理されねばならない。たとえば本の読み方であり、新聞・雑誌の読み方である。あるいはテレビ・映画の見方であり、観察の仕方、体験の反省的検討の仕方である。それらの方法について学ぶ。

④ 口頭報告、討論、レポート・論文作成　：
解読された情報は蓄積しておくだけではなく、表現され伝達されなければならない。ゼミナールにおいて口頭で報告したり、討論し合ったり、さまざまなテーマについて小論文を書き添削指導を受けたり、また、年間を通じて特定テーマを選択し論文を書いたりすることを通して、研究発表の方法を学ぶ。

大学での４年間の学習において、また、卒業後の職業生活において必要なのは特定テーマについて情報を収集し・蓄積し、それらを解読・整理し、自分の問題関心や視点に基づいて再構成し、それを表現・伝達する力である。それは即席では身につかない。そこでこの基礎演習に参加して、その力を少しでもつけておくことが望ましい。ただし、開講される基礎演習の各クラス案内に書かれているように、取り上げられる具体的テーマや、指導において重点の置かれる項目にはかなりの違いがあるので、案内をよく読んで選択していただきたい。

科目名称　：　社会学科基礎演習
対　　象　：　社会学部社会学科１回生
形　　式　：　ゼミナール
定　　員　：　30名

「社会学科基礎演習」クラス・研究テーマ一覧

ｸﾗｽ	担当者	研究テーマ	ﾍﾟｰｼﾞ
０１	巖　圭介	環境問題を考える	１７３
０２	上田　修	みんなで学ぶ・現代日本社会	１７３
０３	〃	〃	１７３
０４	過　放	日本におけるエスニック文化	１７４
０５	北川　紀男	データでみる日本の現状	１７４
０６	〃	〃	１７４
０７	木下　栄二	「身のまわり」からの社会学	１７５
０８	清水　由文	「食」の社会学入門	１７５
０９	鈴木　富久	映画で学ぶ社会学－社会形成と人間形成－	１７６
１０	竹中　英紀	社会学の眼で生活の「場」をとらえる	１７６
１１	西川　一廉	青年の心理を考える	１７７

1. ゼミナール形式で授業を行うため、定員を30名とします。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。

2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです。

3. この科目は、学則上社会学部社会学科教育科目「学科選択科目（4単位）」に位置づけられています。

4. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順受付）**が必要です。

対象者：03SS生（社会学部社会学科１回生）

定　員：30名

予備登録日時：4月5日（土）　9:10～13:00（昼休憩なし）

場　所：教務課窓口

申込方法：先着順に受付決定します。教務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

＜注意＞申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限を確認しておいてください。
学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０１	通　期	４単位	巖　圭　介

［演習概要・学習目標］

この演習では、環境問題を材料にして、大学生活に必要な基礎技術　－調べる、読む、考える、書く、伝える－　を身につけてもらう。

インターネットの普及により、資料を集めるのは簡単になった。とくに環境問題に関する情報はちまたにあふれている。その資料を集めてどうするか、そこからどうやって重要な情報をつかみ、それをどう人に伝えるか。これらのことを身につけてもらうのがこの演習の目的である。

［成績評価の方法］

出席、報告、参加度、レポートなどを総合的に判断して評価する

［教科書］

なし

［演習計画］

実際に、いろいろなテーマについて論文を書き発表するまでのプロセスを体験しながら、各ステップで気をつけるべきことを学んでもらう。

・資料収集演習
・討論演習
・レポート執筆演習
・プレゼンテーション演習

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０２ ０３	通　期 通　期	４単位 ４単位	上田　修

［演習概要・学習目標］

この演習の目的は、自ら考え、調べ、報告し、討論するという作業をおこなうことによって、学ぶことの楽しさを再発見することにある。すなわち、各自の問題関心にそって文献を調べ、資料を系統的に収集することで論点を導き出し、さらにそれにもとづいて報告をおこない、討論する楽しさを味わいながら研究能力の向上を図る。具体的対象は、各人の問題関心に任せるが、採り上げられた問題・・・例えば、校則・いじめに典型される教育問題、家族の変容、テロリズムと宗教といった問題・・・が社会学的にいかに説明できるのかを、演習計画に示したプロセスを通して考える。

［成績評価の方法］
①出席、②報告内容、③討論への参加、④レポートを総合的に勘案して評価する。

［教科書］

使用しない

［演習計画］

1　班の構成
①最初に、各自の問題関心にもとづくグループ化（班構成）をおこない、②文献・資料の調査方法、③報告の仕方、レジュメの作成について説明する。
2　第1次班別報告
若干の準備期間を設けた後、１によって構成した班から1度に１テーマづつ報告を受け、小グループ（３～４グループ）に分かれて討論をおこなう。グループ別討論のあと、全員で各班の討論内容を確認する。
3　第2次班別報告
第1次班別報告が一巡した後、再び各自の問題関心にそって班別構成を再編成し（どのようにおこなうかは演習参加者の希望を聞いた上で決める）、班別報告の第2ラウンドをおこなう。この際、グループ討論は、第1ラウンドより規模を大きくしておこなう。これによって、徐々にではあれ、多人数のなかででも発言できる力をつけていく。
5　レポートの提出
演習の最終段階において、報告・討論を踏まえたレポートの作成をおこなう。

［参考文献］

その都度、指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習 日本におけるエスニック文化	０４	通　期	４単位	過　放

［演習概要・学習目標］

わたくしたちは日常の暮らしのなかで、実は食文化からさまざまな商品、ブランドあるいはファッション、言葉など、いたるところで外国との交流や外国文化の影響を受けていると思われる。また世界各地から来ている外国人にたびたび出会うこともある。たとえば大阪にもそういうようなエスニック社会のようなものを見出すことができる。本演習では、このような日本におけるエスニック文化を考える。基本的にはそういう作業するために、問題の提起、資料の収集と学習、レジュメの作成、発表の仕方、レポートの書き方、現地調査（または人物訪問）などを通して日本におけるエスニック文化を明らかにしたい。

［演習計画］

＜春学期＞
1．パソコン・図書館の使い方など文献の探し方
2．文献の読み方
3．レジュメの作り方と報告
4．各自の問題関心の明確化
5．社会観察・調査の仕方
6．夏休みのレポートの課題

＜秋学期＞
1．夏休みのレポートの報告
2．テキストの発表と討論

［成績評価の方法］

出席、調査報告、レポートなどにより総合的に評価する。

［参考文献］

随時提示する。

［教科書］

未定

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習（データでみる日本の現状）	０５ ０６	通　期 通　期	４単位 ４単位	北川　紀男

［演習概要・学習目標］

この演習は、学問をすることのおもしろさを、さらには社会学を学ぶことのおもしろさを知ってもらい、社会学への動機付けをおこなうことを目論んでいる。また、社会学を学ぶ基礎的な素養を身につけさせることも課題である。演習では、政治・経済・文化にかかわる５５項目の統計資料に基づいて、我が国の現状を把握させるとともに、この考察を通じて社会学的な考え方を身につけさせたいと考えている。

授業では、各テーマごとに担当者を決めて報告させ、レポートを提出させる。テーマの内容については、講義計画を参照されたい。演習科目であるから、報告の準備を怠らないことは言うまでもないが、授業に出席することが先ず第一であり、欠席することは厳に謹んでもらいたい。また、演習の主役は学生諸君である。演習では、積極的に発言するように心がけて欲しい。

［演習計画］

演習は、以下のテーマで進める。
①大学生活について
②社会学とは何か
③以下のテーマを順次取り上げる。
人口、労働、国民所得、エネルギー、資源、農業、林業、水産業、工業、サービス業、食料、商業、企業、貿易、国際収支、運輸、通信、マスコミ、広告、レジャー、教育、社会保障、保険衛生、環境問題、災害、事故、犯罪、警察、国防と自衛隊など。
④２回生以降の学習計画について
⑤まとめ

［成績評価の方法］

演習での報告、レポート及び出席状況に基づいて総合的に評価する。６回以上欠席した者は、単位認定の対象外とする。

［参考文献］

その都度、指示する。

［教科書］

矢野恒太記念会編・矢野一郎監修『日本国勢図会　２００１』（２００２年、国勢社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習（「身のまわり」からの社会学　）	07	通　期	4単位	木下　栄二

［演習概要・学習目標］

社会とは何か？　社会学とは何か？　そう考えるととても難しい問題のように思える。しかし、我々は誰もが社会の中で生きていて、我々がいて初めて社会も存在しうる。
この演習では、我々の身のまわりの様々な事象（親子喧嘩、恋愛、流行、大阪のお笑い、あるいはマナー、校則、いじめ、要するに何でもありだ）と社会全体との関わりを追求することで、社会学のイメージと社会学的思考法、特に社会学的想像力について学ぶことを課題とする。

［演習計画］

状況をみて調整するが、おおむね以下の通り。

＜春学期＞
1．演習を進めていくための予備的な講義
2．各自の問題関心の明確化
3．資料の探索、レジュメ作成の仕方についての講義
（この段階でパソコンを利用する）

＜夏休みの課題：中間レポートの作成＞

＜後期＞
4．中間レポートの報告と討論
5．年度末レポートの作成

［成績評価の方法］

中間レポート、年度末レポート、出席、討論内容等から総合的に評価する。

［参考文献］

適宜指示する。

［教科書］

特に指定せず。

社会 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	08	通　期	4 単位	清　水　由　文

［演習概要・学習目標］

１９７０年以降食の近代化により、ファースト・フードやファミレスなどでの外食化がわれわれの食生活で当たり前になってきています。他方それらに対してイタリアにはじまったスローフードの NPO 運動も最近日本でも行なわれるようになってきました。そこで本演習ではどのように食の近代化がはじまったのか、その現状はどのようになっているのか、そこにはどのような問題があるのか、というテーマを問うことにより日本の社会の特徴を考えたいのです。それは日本の食の社会学入門といえるでしょうか。本演習では基本的にそのようなテーマの理解するために、①　いかに情報を収集するか、②　どういう点が問題か、③　それをいかにまとめるか、④　いかに報告するか（口頭や書くこと）という作業をとおして進めていきたいと思う。

［演習計画］

（春学期）　①　図書館での資料収集　②　インターネットのホームページによる資料収集　③　ワ－プロや表計算の基礎的練習　④報告レジュメの作り方　⑤　報告の仕方

（秋学期）　①　グループ単位でのテキストの報告　②　レポートの書き方　③　各自のテ－マで最終レポート作成

［成績評価の方法］

①　出席、②　授業での報告、③レポートで総合評価する

［参考文献］

随時提示する。

［教科書］

（春学期）野村一夫『社会学の作法・初級編』文化書房博文社
（秋学期）未定

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習 映画で学ぶ社会学－社会形成と人間形成－	09	通　期	4 単位	鈴　木　富　久

［演習概要・学習目標］

「キューポラのある街」1962年

人間は環境の産物である。かって狼に育てられた二人の子がインドで発見された。四肢で走り、動作と情動は狼そのものだった。他面、人間は環境を変えもする。人類史を通じて社会と人間は深い変貌をとげてきた。この変貌を、ここ70年ほどの間に激動をくぐりぬけてきた日本の場合において追体験し、現在の人間形成と社会の現実を考える。

このために本ゼミでは、1930年代以降の代表的な日本映画のなかから青少年を主人公にした名画を時代順に鑑賞する。子どもはつねに時代の社会的現実を如実に写す鏡であった。多くの問題を抱える今日の子どもの姿から、現代日本の社会的現実が浮かび出る。そこで、映画の鑑賞と検討を踏まえたうえで、今日の子どもと広義の教育の諸問題に焦点をあて、そこから「社会形成と人間形成」の主題に接近することにする。

本ゼミのネライは、こうした課程を通じて、各人の自己形成に資しながら、社会学への学問的な導入をはかることにある。このため文献研究や討論もあわせて展開し、各人が学術論文を書くことができるようにする。

［演習計画］

《前期》1.『狼に育てられた子』読後討論。
2.映画：小津安二郎「生まれてはみたけれど」1932，黒沢明「一番美しく」1944，同「わが青春に悔いなし」1946，今井正「青い山脈」1949，等を観て、戦前・戦中・戦後という時代の転変と人間の有様の変容を考える。
3.若干の文献研究と討論

《後期》1.映画・浦山桐郎「キューポラのある街」1962。これ以降の映画はゼミ生との協議で決め、高度成長期から今日にいたる社会の変動と人間の変容を考える。
2.文献研究と個人研究報告をへて、学年末の総仕上げの論文作成に向かう。

＊ゼミは学生の自主運営を図る。人数によっては班編成をとって討論する。

［成績評価の方法］

出席点，レポート（論文および映画・読書の感想文），討論およびゼミ活動全般への積極性如何等の総合評価。
＊ゼミナールでは無断欠席は認められない。

［教科書］

シング『狼に育てられた子』福村出版
尾木直樹『「学級崩壊」をどうみるか』日本放送出版協会
堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書

［参考文献］

●吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫●加藤恒男編『社会倫理の探究－哲学と社会学の視座から』ﾅｶﾆｼﾔ書店●ﾎﾞﾙﾄﾏﾝ『人間はどこまで動物か』岩波新書●ｱﾘｴｽ『〈子ども〉の誕生』みすず書房●深谷昌志『無気力化する子どもたち』NHKﾌﾞｯｸｽ●芹沢俊介『子どもたちはなぜ暴力に走るのか』岩波書店●清水賢二編『非行少年の世界』有斐閣●城丸章夫『管理主義教育』新日本出版社●中内・他『日本教育の戦後史』三省堂●柴野・菊池・竹内編『教育社会学』有斐閣●池谷・他『競争の教育から共同の教育へ』青木書店●乾彰夫『現代日本の教育と企業社会』大月書店●大内洵子『ｼﾞｭﾝｺ先生のﾄﾞｲﾂ教育体当り奮戦記』五月書房●宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫●太田素子『江戸の親子』中公新書●E・ﾌﾛﾑ『自由からの逃走』東京創元新社●ﾘｰｽﾏﾝ『孤独な群衆』みすず書房●桜井哲夫『「近代」の意味』NHKﾌﾞｯｸｽ●小池直人『ﾃﾞﾝﾏｰｸを探る』風媒社●熊沢・清・木本『映画ﾏﾆｱの社会学－ｽｸﾘｰﾝにみる人間と社会』明石書店●山田和夫『日本映画101年』新日本出版社

社会 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習 ――社会学の眼で生活の「場」をとらえる――	10	通期	4単位	竹　中　英　紀

［演習概要・学習目標］

社会学とは、人間が社会を作って生活している場において、その社会が、いったいどのような社会階層（＝共通の境遇にある人びと）や社会集団（＝たがいに結びつき、組織的に行動する人びと）から構成されているのか――そして、そこには、人びとを振り分け、一方では連帯を、他方では対立をもたらすどのようなメカニズムが働いているのか――を明らかにしていく学問である。そのために、家族、学校、職場、地域、文化、宗教……など、さまざまな「場」に即して、専門的な研究分野が発達してきた。

この演習では、新入生にとって比較的身近と思われる分野の入門的な文献をテキストに、社会学的なものの見方の基礎を学び、あわせて、大学での学習に不可欠な読み・書き・討論の能力を身につけていくことにしたい。

［演習計画］

①本を読んで、その主張やそこで提示されたデータを的確に要約する訓練。

②複数の文献資料をもとに、事実関係の記述・分析を行ない、そこへ、共同での議論をふまえつつ、自分なりの考察を付け加えていく訓練。

③小グループを編成し、それぞれのテーマを決めて共同調査（文献調査、フィールドワーク）。

④各自の役割を分担し、グループでのレポート作成。

［成績評価の方法］
出席、授業への参加状況（報告や発言）、レポート等を総合して評価する。

［教科書］
宮本みち子『若者が《社会的弱者》に転落する』洋泉社新書（640円）
広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書（720円）
木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫（780円）
――3冊とも購入すること。

［参考文献］
社会学の研究分野の広がりとその歴史について：
アンソニー・ギデンズ（松尾ほか訳）『社会学』而立書房
ランドル・コリンズ（友枝ほか訳）『ランドル・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
社会学研究の理論と方法について：
N. J. スメルサー（山中訳）『社会科学における比較の方法』玉川大学出版部
佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
社会学科基礎演習	１１	通　期	４単位	西川　一廉

［演習概要・学習目標］

「青年の心理を考える」が当演習のテーマである。
青年期はいわゆる子どもから大人への移行期に当たる。心身共に人生の中でもっとも変化が激しく，それゆえ激動の時代とも疾風怒濤の時代ともいわれてきた。この時期は一般に前期，中期，後期に分けられるが，大学時代は青年期後期に当たる。いわば青年期の総仕上げをし，子ども時代を卒業して，大人の仲間入りを果たす最終段階である。しかし周知のようにモラトリアムが長く，身体は大人だが，精神はいつまでも子どもでいる人も多い。
当演習の目的は，当事者である新入生諸君が自分たちで青年の心理について考えながら，これから始まる大学生活に向けて準備をすることである。相互に意見交換をしながら，私たちは何処からきて，何処へ行こうとしているのか，どのようになりたいと思っているのかなどを考えるのである。
そのためには積極的な探求の姿勢が必要である。与えてくれるのを待つ受け身の学生はいらない。

［演習計画］

小グループに分かれ，さまざまなテーマを設定して討議や実習を繰り返す。討議の成果はクラスに口頭発表をする。またレポートにまとめてクラスで報告する。グループは適宜，組み替える。したがって全員が報告の機会をもつ。
また前期末，後期末にはレポートを課す。前期末のレポートをもとにプレゼンテーションするのが後期の主たる課題となる。

［成績評価の方法］

出席，報告，討議への参加，レポートをもとに総合的に評価する。

［教科書］

未定。

［参考文献］

随時，指示する。

「社会学科文献演習」クラス一覧

ｸﾗｽ	担　当　者	ﾍﾟｰｼﾞ	ｸﾗｽ	担　当　者	ﾍﾟｰｼﾞ
０１	片桐　新自	１７９	０６	清水　夏樹	１８１
０２	〃	１７９	０７	野々山　久也	１８１
０３	金児　暁嗣	１７９	０８	藤森　勉	１８２
０４	小牧　一裕	１８０	０９	山内　乾史	１８２
０５	捧　堅二	１８０			

1. ゼミナール形式で授業を行うため、定員を30名とします。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。

2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです。

3. 学則上、この科目は社会学部社会学科教育科目「学科選択科目（4単位）」に位置づけられています。

4. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順受付）**が必要です。

対 象 者 ： 02SS生（社会学部社会学科2回生）

定　　員 ： 30名

予備登録日時 ： 3月24日（月）　9:10～15:00（11:30～12:30昼休憩）

場　　所 ： 教務課窓口

申込方法 ： 先着順に受付決定します。教務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

＜注意＞申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限を確認しておいてください。
学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科文献演習	01 02	通期 通期	4単位 4単位	片桐新自

［演習概要・学習目標］

少人数クラスの特性を生かし、相互的コミュニケーションを繰り返すことで、多人数講義ではできない学習を行う。具体的には、受講者が指定された文献をきちんと読み、レジュメを作り、報告をし、議論をするということが主になる。他にも、現代社会で生じている様々な問題に関しても議論をし、社会学的に考えていく訓練も行う。

具体的に取り上げるテーマは、「歴史的環境」である。我々は、日頃歴史を実感することなく生きているが、もちろん実際にはすべての人間は歴史の中で生きている。そうした歴史を感じることができるのが、歴史的環境である。なじみのある言い方では、「古都」や「古い町並み」ということになるだろうか。しかし、「歴史的環境」はもっと広く捉えることが可能だし、またそう捉えるべきである。「歴史的環境」概念を広く捉え、それを守るための活動や、それを現代社会の中でどう生かしていくのか、様々な事例を通して学んでもらう。

［演習計画］

とりあえず、前期は、片桐新自編『歴史的環境の社会学』新曜社を輪読する。それとともに、現在生じている様々なニュースについての発表と議論を行う。受講人数と受講者のレベルに合わせて、夏期休暇中の課題や後期の計画は決めていく。

［成績評価の方法］

平常点（出席、報告の仕方、レジュメの出来、議論への参加度とレベル）とレポートで、評価を行う。

［教科書］

片桐新自編『歴史的環境の社会学』新曜社

［参考文献］

必要に応じて指示する

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科文献演習	03	通期	4単位	金児暁嗣

［演習概要・学習目標］

社会心理学とは、人びとが相互についてどのように考え、影響を及ぼし合い、関係し合っているかについての科学的研究である。この演習では、米国社会心理学の泰斗エリオット・アロンソンによるテキストの講読をつうじて、社会的状況における人間の行動のパターンやその動機を学ぶことを目的とする。

この演習によって、同調、マスメディア、社会的認知、自己、攻撃、偏見、好意と愛といった広範な社会心理現象を科学的に解釈する力を養うことが期待される。

［演習計画］

教科書の章にしたがって、各自が分担の章の概要について、また、授業中に指示した重要関連文献について、レジュメを作成して発表する。章立ては以下のとおりである。

1．社会心理学とは何か　2．同調　3．マスコミ、宣伝、説得　4．社会的認知　5．自己正当化　6．人間の攻撃　7．偏見　8．好意、愛、対人的感受性　9．科学としての社会心理学

［成績評価の方法］

発表内容と議論への参加の程度を考課の材料とする。

［教科書］

E．アロンソン（古畑和孝監訳、岡隆・亀田達也訳）『ザ・ソーシャル・アニマル ―― 人間行動の社会心理学的研究』　サイエンス社、1994年

［参考文献］

適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科文献演習	０４	通期	４単位	小牧一裕

［演習概要・学習目標］

社会心理学に関する文献・論文を読み、その理論と研究技法を学ぶ。人間の社会的行動について、その法則性を探り、理解を深める。ゼミ形式による学生参加型授業、というより学生主導型授業であるため、授業への積極的参加が不可欠である。

［演習計画］

社会心理学の基礎的な文献及び論文を輪読し、それについて議論を行う。社会心理学の専門用語について発表形式によって質疑応答を行い、知識を深める。

また、後期後半には実際に調査を行い、研究技法についてもその基礎を学習する。

［成績評価の方法］

積極的な授業への参加、レジュメ、発表などを総合的に評価する。

［参考文献］

対人社会心理学重要研究集　１～７　誠信書房

［教科書］

必要に応じて指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科文献演習	０５	通期	４単位	捧　堅　二

［演習概要・学習目標］

「現代の日本と世界を撃つ」というテーマで授業を進める。

知的な生活の基本は《本を読む》ということである。
この演習の目的は《本を読む》ということが学生諸君の生活の有機的な一部分になることをめざしている。

授業の進め方としては、まず選択されたテーマについて、わたしのほうから講義をする。次に皆さんに資料を読んだり、ビデオ見たりしてもらう。そして、ブックガイドをする（専門書、教養書だけではく、雑誌や小説も）。

［演習計画］

前期は、日本をまな板の上にのせる。
「日本国家」の起源、天皇制、靖国神社、赤穂浪士討ち入りなど。また、最近の出来事も随時取り上げたい。時代小説も取り上げ、伝統的社会の人間関係も検討する。

後期は、まだ具体的に何をするか決めていない。学生諸君と相談して決めたい。たとえば、２０世紀の歴史を共産主義とかナチズムとか、ジェノサイドとかいったトピックスを取り上げて検討していくとか、「文明」「伝統」「モラル」「ユダヤ人」などについて映像をまじえて勉強するとか、考えている。

［成績評価の方法］

毎回出席を取る。
レポートを少なくとも１０回以上提出してもらい、それによって成績を評価する。

［参考文献］

講義の際、随時、多数の参考文献を紹介する。

その中から選択して１０冊以上の本を読んでもらう。

［教科書］

未定

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科文献演習	06	通期	4単位	清水夏樹

[演習概要・学習目標]

高度消費社会化にまつわる流行現象の具体相への各関心項目を煮つめる。大衆音楽歌謡、ファッションデザイン等、カウンターサイド(外野席)から現代社会の底流にあるものを探り当てる。ただ、そのさい、(1)コミュニケーション・ツールとしての「モード」、その古典的・最進的両義性
(2)世相、社会との反映関係、時代の転換点とトレンド
を忘れないではしい。時代への認識、距離感をもたないまっては、流行文化の表層と断片を追うだけに終ってしまうからだ。いま、大きくは戦後50年史を新世紀点(=旧世紀末)から照射する好機でもあり、このような問いかけを以てメインの文化を下支えするものを読みとく試みにチャレンジすること。

[演習計画]

前期:「モード」の今昔、青年文化にみる「聖、俗、遊」三層フレーム
消費社会におけるコミュニケーションコード、シンボリック相互作用説

後期:上記価値領域「遊」のミクロ分析、高度情報化に向けての「モード」の転意、メディア・リテラシイ、それらの記号論的再解釈

[成績評価の方法]

主要文献の読解と発表内容、各自の要する資料拾収状況、そのつど課する簡易レポート等を、総合評価(最終レポートへの)の判断材料とする。

[参考文献]

随時 指定 指示する

[教科書]

追って随時指示する。

社会 02～

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科文献演習	07	通期	4単位	野々山久也

[演習概要・学習目標]

この文献演習では、家族社会学の分析視覚について学習する。ここでいう家族は、集団としての家族だけでなく、制度としての家族やライフスタイルとしての家族を意味する。テキストである『家社会学の分析視覚』は、今日の社会学的アプローチを代表するいくつかの接近方法を、家族という研究対象に適用することによって修得することが可能になるように編集されている。本書を用いて文献演習を行なうことによって、学生諸君は、今日の社会学の研究動向と研究方法を修得することができる。本書は、社会学の分析方法が実は蓄積された社会学理論を前提にして構成されていることを学ぶことになり、そして、そのことは社会学の多くの一般命題を知らず知らずのうちに学習していることになる。

たしかに本書は、高度な社会学の専門書であって、読破するのは必ずしも容易ではない。小説や週刊誌を読むのとは違って、なかなか難しい。しかし、じっくりと腰を落ち着けて読みはじめて見ると、読み終えたあとの満足感は、小説や週刊誌の比ではない。殊にそれが体系だった理論書であれば、なおさらである。

難解な文献であるとはいえ、対象が家族であるということから、まったく理解できないなどということはない。しっかり読みすすめば、難解であると思われるところも、意外と面白かったりする。読み終えたあと、自らが社会学の専門課程の学生であるという誇りを持つことができるようになるはずである。諸君の社会学への関心と家族分析への関心は、倍増することになるだろう。

[演習計画]

〈 前期 〉

1. 比較制度論的アプローチ
2. 形態論的アプローチ
3. 歴史社会学的アプローチ
4. 人口論的アプローチ
5. ジェンダー研究的アプローチ
6. エスノメソドロジー的アプローチ
7. 構造機能論的アプローチ
8. システム論的アプローチ

〈 後期 〉

1. 家族周期論的アプローチ
2. 家族病理学的アプローチ
3. 家族ストレス論的アプローチ
4. 相互作用論的アプローチ
5. 交換論的アプローチ
6. ネットワーク論的アプローチ
7. 家族ライフスタイル論的アプローチ
8. ライフコース論的アプローチ
9. 構築主義的アプローチ
10. 家族データ解析技法

[成績評価の方法]

授業中の発表と夏休みのレポートと期末のテストの総合的な評価で成績を決定する。出席を、とくに重視する。欠席の回数によっては単位を出さない。

[参考文献]

野々山ほか(編)『いま家族に何が起こっているのか』(ミネルヴァ書房)
野々山ほか(編)『家族社会学入門』(文化書房博文社)など。
その他、授業の進展にそくして、その都度、随時紹介していく。

[教科書]

野々山久也・清水浩昭(編)『家族社会学の分析視覚ー社会学的アプローチの応用と課題ー』(ミネルヴァ書房 2001年)3800+税

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科文献演習	08	通期	4単位	藤森 勉

[演習概要・学習目標]

人文地理学に関する演習を行う。人文地理学は研究対象によってさまざまな分野があるが、教科書として使用する本書は、関西大学を中心とする研究者が大学における演習用教科書として編集したもので幅広い人文地理学の内容を理解させることができる。

[演習計画]

新訂人文地理に掲載されている20編の論文から各自関心の深いテーマを選んで解説させ討論によって内容を深めさせる。

[成績評価の方法]

授業中の発表、討論、小テストをもって評価する

[教科書]

末尾至行・橋本征治編 新訂人文地理 大明堂発行

[参考文献]

社会 02～

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科文献演習	09	通期	4単位	山内乾史

[演習概要・学習目標]

この文献演習では、前期はロック＆ポップスを中心とする音楽社会学について、後期は学力低下を中心とする教育社会学についての、日本語の基本的文献を講読します。目的は社会学的なものの見方、とらえ方のトレーニングということにあります。ゼミ形式での授業ですので、順番にテーマを与えて発表して頂きますが、発表者以外の方も積極的に参加し、どしどし発言してもらいたく思います。なお、関連するビデオの鑑賞・批評も行います。

[演習計画]

前期に読むことを考えている文献は、バートランド『エルヴィスが社会を動かした－ロック・人種・公民権－』青土社、2002年、フリス『サウンドのカー若者・余暇・ロックの政治学－』晶文社、1991年、ライバック『自由・平等・ロック』晶文社、1993年など。後期に読むことを考えている文献は、原・山内『学力低下（仮題）』ミネルヴァ書房、2003年、長尾他『「学力低下」批判』アドバンテージ・サーバー、2002年、別冊宝島『小学校がたいへん！－教師達が語る「学力低下問題」の本当の事情－』宝島社、2001年など。

[成績評価の方法]

発表内容と参加度によります。出席は評価の前提条件になります。

[教科書]

必要に応じて指示します。

[参考文献]

必要に応じて指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会調査Ｂ　（旧社会調査）	０２	秋学期	２単位	過　放

［講義概要・学習目標］

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙調査法を中心に、小グループ単位での実習体験もまじえながら、社会調査の知識と技法の実践的習得をめざす。
質問紙調査法は、いわゆる「アンケート調査」と考えてもらってかまわないが、むろん、単純な世論調査（「はい」が何％、「いいえ」が何％）にとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会の中でいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。
なお、この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむ。したがって、毎回の授業への積極的な参加のみならず、授業外の時間を使っての共同作業や、仲間との協調性が強く求められる。

［講義計画］

1 問題意識をどう持つか
2 仮説の作り方
3 変数から質問文へ
4 質問文の作り方
5 調査票の作成
6 調査の実施
7 コーディングとデータ入力
8 単純集計とクロス集計
9 統計的検定とエラボレーション

［成績評価の方法］

出席状況と筆記試験、および課題の提出状況を総合して評価する。
（なお、詳細については最初の授業にて説明する）

［教科書］

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

［参考文献］

・酒井隆『アンケート調査の進め方』日経文庫
・末永俊郎編『社会心理学研究入門』東京大学出版会
・東京大学教養学部統計学教室編
『人文・社会科学の統計学』東京大学出版会
ほか、授業時に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会調査Ｂ　（旧社会調査）	０３	秋学期	２単位	木下　栄二

［講義概要・学習目標］

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙調査法を中心に、小グループ単位での実習体験もまじえながら、社会調査の知識と技法の実践的習得をめざす。
質問紙調査法は、いわゆる「アンケート調査」と考えてもらってかまわないが、むろん、単純な世論調査（「はい」が何％、「いいえ」が何％）にとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会の中でいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。
なお、この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむ。したがって、毎回の授業への積極的な参加のみならず、授業外の時間を使っての共同作業や、仲間との協調性が強く求められる。

［講義計画］

1 問題意識をどう持つか
2 仮説の作り方
3 変数から質問文へ
4 問文の作り方
5 調査票の作成
6 調査の実施
7 コーディングとデータ入力
8 単純集計とクロス集計
9 統計的検定とエラボレーション

［成績評価の方法］

出席状況と筆記試験、および課題の提出状況を総合して評価する。
（なお、詳細については最初の授業にて説明する）

［教科書］

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房
（生協にての一括購入）

［参考文献］

・酒井隆『アンケート調査の進め方』日経文庫
・末永俊郎編『社会心理学研究入門』東京大学出版会
・東京大学教養学部統計学教室編
『人文・社会科学の統計学』東京大学出版会

ほか、授業時に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会調査Ｂ（旧社会調査）	０４ ０５	秋学期 秋学期	２単位 ２単位	竹　中　英　紀

［講義概要・学習目標］

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙調査法を中心に、小グループ単位での実習体験もまじえながら、社会調査の知識と技法の実践的習得をめざす。

質問紙調査法は、いわゆる「アンケート調査」と考えてもらってかまわないが、むろん、単純な世論調査（「はい」が何%、「いいえ」が何%）にとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会の中でいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。

なお、この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむ。したがって、毎回の授業への積極的な参加のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

［講義計画］

1 問題意識をどう持つか
2 仮説の作り方
3 変数から質問文へ
4 調査票の作成
5 調査の実施
6 コーディングとデータ入力
7 単純集計とクロス集計
8 統計的検定
9 エラボレーション
10 補論 多変量解析に向けて

［成績評価の方法］

出席状況と共同作業への参加度、個別レポートの内容などを総合して評価する。

［教科書］

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房（社会調査Aと共通）

［参考文献］

・酒井隆『アンケート調査の進め方』日経文庫
・末永俊郎編『社会心理学研究入門』東京大学出版会
・東京大学教養学部統計学教室編
　『人文・社会科学の統計学』東京大学出版会
ほか、授業時に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学原論		秋学期集中	４単位	宮本　孝二

［講義概要・学習目標］

社会学原論は、どのような社会現象においても成立している基本的な社会構成を、体系的に明らかにすることをめざす。すなわち、社会とは何か、社会の一般的特性は何かを、行為や相互行為から構造や変動に至る基礎概念の分析、社会学史に登場する多様な社会理論の紹介を通じて、明らかにしようとするのである。

したがって、社会学原論は社会学史と内容的に大きく重なる。しかし、社会学史のように時系列的に多様な社会理論を紹介し発展の軌跡を描くのではなく、設定された一般理論的問題に現時点でどうかかわるかという視点からそれら諸理論を取り上げる。

また、社会を一般的に問うことは、社会を全体的に問うことに接続していかざるをえず、マクロな変動論を媒介として、社会学原論と現代社会論（社会を全体的に把握することをめざすという意味での）とが統一的に把握されることになるので、近代化に含まれる諸トレンドや現代社会の全体的構成についても解説する。

［講義計画］

1　社会学原論とは何か
2　人間、行為、認識
3　社会の形成：人間社会と現代社会
4　相互行為の４つの側面
5　コミュニケーションの社会理論
6　サンクションの社会理論
7　エクスチェンジの社会理論
8　コンフリクトの社会理論
9　構造という視点
10　変動という視点
11　全体的視点：変動論と現代社会論
12　社会理論の諸相：現代の社会理論家たち

以上の内容を順次約25回で講義する。

［成績評価の方法］

原則として期末試験（講義で解説した基本的内容から出題する空欄埋め問題と、テーマを自由に設定し講義内容と関連づけて論じる記述問題）によってのみ評価する。ただし、自由提出のレポート（講義内容に関して自分で調べて書いたものなど）によって若干加点する場合がある。

［教科書］

宮本孝二『ギデンズの社会理論』（1988年、八千代出版）
現代イギリスの、というよりは現代世界の代表的社会学者アンソニー・ギデンズの社会理論の全体像をまとめ、社会学原論と現代社会論の可能性を探究している。

［参考文献］

その都度指示する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学史		秋学期集中	４単位	竹内　真澄

［講義概要・学習目標］

社会学史とは社会学の歴史のことである。

だが、昔のことを昔のこととして語ってもつまらないから、受動的な解説は避けたい。目標は・・・

第一に、 現代の人間のおかれている社会状況から出発して、自分の社会的な諸相を探していきたい。家族、ジェンダー、学校、企業社会、近代世界システム、消費化、公共圏といったテーマをめぐって社会学者がどういう異なった見解を突きあわせているかをできるだけ論争的に考える。

第二に、上に見た諸相の深層にあるものを突き詰める。＜現代＞の表層をはぎ取ると、＜近代＞という深層が現れる。１８世紀以来の社会学の歩みの中で発見されたものが、いまでもなおわれわれを縛り付け、宿命化し、その抵抗の可能性とともにわれわれを再生産している。とくにスミス・マルクス・ウェーバーを中心に考えることにしよう。

これら二つのテーマをつうじて、われわれは自己が二つのものの交差点にあることに気づく。一つは、われわれが、輪切りにした社会の深層によって規定される表層を生きていること、そして、もう一つは、われわれが、縦割りにした歴史の先端に否応なく立っていること、である。表層と先端の交差点には、絶望が希望と同じ数だけ存在する。

［講義計画］

＜前半＞　私たちの生活にとって最も身近な社会領域である、家族、ジェンダー、学校、近代世界システム、情報化＝消費化、公共圏といった現代的課題を一つ一つ取り上げて、それらの領域をめぐる社会学者の見解の対抗を再構成する。ここでは、パーソンズ、エンゲルス、フェミニズム、ウォーラーステイン、ドーア、ボードリアール、見田宗介などが扱われる。

＜後半＞　前半の領域を踏まえると、問題の根源は＜近代＞とはいったい何かというところへ行き着く。＜近代＞についての歴史認識は、１８世紀以降、三つの立場に分化していく。１８世紀はアダム・スミス、１９世紀はカール・マルクス、２０世紀はマックス・ウェーバーによって代表される。

＜前半＞から＜後半＞へ遡ってみると、＜後半＞は、けっきょく、現代へつながるであろうから、こうして二つのパーツは円還することになるだろう。

［成績評価の方法］

年度末試験で評価するが、授業の進行次第でレポートを課す場合がある。

［教科書］

伊藤、大関、小林、鈴木、竹内『人間再生の社会理論』創風社

［参考文献］

Ｔ・パーソンズ『社会的行為の構造』木鐸社
Ｊ・ハーバーマス『コミュニケーション的行為の理論』未来社
内田義彦『社会認識の歩み』岩波新書
ハワード・ジン、竹内真澄訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
現代社会論		春学期集中	４単位	原　田　達

［講義概要・学習目標］

今年の講義では、ひとりの知識人を取り上げて、第二次大戦後の日本社会の文化と構造に迫りたい。

ここで取り上げる知識人とは、鶴見俊輔である。現在の学生さんにはあまり馴染みのない人かもしれない。しかし、戦後社会でこの人がはたした役割はおおきい。その影響は社会学だけでなく、文化研究、映画・まんが研究、文学研究など多岐にわたっている。また、戦後政治にたいする根本的な疑問の提示は、一時期、人びとにおおきな影響をあたえた。

この講義では、ひとりの知識人を追いかけることによって、戦後日本社会の構造と変化について学んでくれれば、と思う。

［講義計画］

まず、鶴見俊輔とはだれかから始めたい。と同時に、明治以来の日本社会の特徴について論じたい。その際、注目したいのが、「社交資本」という概念である。鶴見俊輔の「社交関係」を追いかけてみると、この国にはある時期、「文化的支配階級」とでも呼びうるような社会階層が存在していたことがわかる。この階級は、たとえばイギリスのジェントリー、ドイツの教養市民層に比べれば、薄っぺらな社会層でしかなかった。しかし、かれらが近代日本社会の基礎を作りあげたこともまた疑いない。

この講義は、鶴見俊輔を狂言回しにして、現代日本社会の成立と変化について論じる予定である。

［成績評価の方法］

試験をおこなう。思い出したようにレポートを課すかもしれない。

［教科書］

原田達『鶴見俊輔と希望の社会学』　（世界思想社）

［参考文献］

その都度指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会心理学	01	通　期	4単位	金　児　暁　嗣

［講義概要・学習目標］

私たちは他の人や集団、文化の影響を受け、また私たちの行動のあり方いかんが、他の人びとの行動にも影響を及ぼしたりしている。社会心理学とは、このように人間の行動を他の人との関わりのなかで、また、文化的営みとの関連のなかで、科学的に分析しようとする学問である。

講義では、われわれの日常生活に深く関わりのある社会心理学上のテーマを取り上げ、とくに若者に焦点を据えて人間関係、集団、文化などの問題について述べたいと思う。受講生諸君は日常生活への洞察を得て、自己や他者、異文化をみる感性を養い、社会的適応へのヒントを得ることができるものと期待している。これが本講義の目標でもある。

この目標を実現するために、前半では、社会的環境における基本的な心理過程を中心に取り上げ、後半では、他者・集団・文化との関わりにおける心理過程について考え、最後に社会現象に触れることにしたい。

［講義計画］

予定している授業内容は以下のとおりである。

なお、社会心理学は机上の空論ではなく、現象とデータが重視される科学的・実証的な学問である。このために、視覚的材料（スライド・ビデオ・OHP）を活用する。

Ⅰ．イントロダクション：（1）心理学とは？　（2）社会心理学とは？
Ⅱ．社会的思考：（3）自己　（4）社会的認知　（5）態度の形成と変容
Ⅲ．社会的影響：（6）同調行動　（7）説得　（8）集団のダイナミックス
Ⅳ．社会的関係：（9）攻撃と援助　（10）恋愛　（11）対人的コミュニケーション
（12）集合行動　（13）宗教と社会　（14）健康心理学

［成績評価の方法］

時折小テストを行ったり、講義中にアンケート調査を実施したりして、それを講義の材料とする。要するに出席が重視される。

［参考文献］

高木修編　『社会心理学への招待』（有斐閣）
大橋正夫・佐々木薫編　『社会心理学を学ぶ』（有斐閣）
池上知子・遠藤由美　『グラフィック 社会心理学』（サイエンス社）

［教科書］

金児暁嗣編　『サイコロジー事始め』（有斐閣）近刊

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会心理学	02	通期	4単位	小牧一裕

［講義概要・学習目標］

社会心理学は、その社会における人々の日常生活の心理状態、また、他人との関係（対人行動）及びその社会において人々が行う行動（社会的行動）の原因やそのメカニズムについて解明し、説明するための学問である。この講義を通して、現在の自分の心理状態や自分の行う行動について自分自身で再考することを目指す。

［講義計画］

前期は、社会的な現象から影響を受けてパーソナリティが形成されてくるプロセス（日本の文化・家庭・学校・地域社会などからの影響：社会化）について、後期は、対人関係・対人行動（対人認知、対人魅力、援助と攻撃、態度、同調行動など）について説明していく。

［成績評価の方法］

積極的な授業への参加、レポート提出、試験などで総合的に評価する。

［参考文献］

必要に応じて指示する。

［教科書］

杉野・安藤他「人間関係を学ぶ心理学」福村出版　1999

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
家　族　社　会　学		通期	4単位	菰　渕　緑

［講義概要・学習目標］

家族はこれまで社会の基礎単位として位置づけられてきたが、現代社会ではその家族の存在が改めて問われている。本稿では家族の変遷を歴史的な流れの中で把握し、社会と家族との関連を考える。また家族の非典型的形態を見ることによって、逆に家族の存在理由を問い直す。さらに急激な変化を経験した家族の姿を通して、家族の多様性という視点から現代家族が抱える諸問題を分析していく。

なお、家族をよりよく理解するために、背景としての社会についての考察を適宜取り入れていく。

［講義計画］

1．家族の本質ー家族とは何か
2．非典型的家族の存在に見る家族のあり方
3．家族と文化
4．家族の構造と機能
5．家族の変遷
6．家族における社会化とパーソナリティ
7．家族の内部構造ー勢力構造と役割構造
8．諸外国における家族の実態
9．家族の将来像ー家族政策および家族福祉の視点から

［成績評価の方法］

筆記試験によって評価する

［教科書］

未　定

［参考文献］

清水　由文・菰渕　緑　編『変容する世界の家族』
１９９９年　ナカニシヤ出版

社会 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
村落社会学		秋学期集中	4 単位	清　水　由　文

［講義概要・学習目標］

第２次大戦後日本の食料自給率は経済成長とは逆行して漸次低下し続け、それは現在３０％台です。そのような食料問題は現代日本における重要課題の１つになっていますが、それらはの問題は日本の農業の変化と食の多様化、欧風化への変化という２つの側面から明らかにされる必要があるといえます。そこで前半では日本の農業・農村がどのように変化したのかという生産者側の視点と消費者側における食の変化の視点を中心に検討します。そして後半では日本のコミュニティーの１つである村落はどのような仕組みからなりたっているのかという問題を都市コミュニティーと比較しながら考えてみたいのです。まず構成要素である家族や親族組織から展開させ、つぎに村落構造のもつ特徴を明かにしながら講義を進めていきたいと思います。

［講義計画］

１．戦前の日本農村の特質ー地主制と関連させてー　２．農地改革の特質と意義　３．高度成長経済と日本農村の変化　４．基本法農政と新農業基本法との比較、５．旧食糧法と新食糧法の比較　６．環境からみた農と食（遺伝子組替え食品、狂牛病などのの関連）、７．グリーン・ツーリズム、８．食の近代化（ファースト・フードとスローフードの問題）

９．村落とはなにか、１０．伝統的家族としての「家」概念　１１．日本農村における家族　１２．日本農村の親族組織　１３．日本農村の村落の特徴と現状　１４．日本の村落の地域性　１５．日本の村落の組織と運営

なお以上のようなテ－マに対して適宜ビデオを用いることにより視覚的に理解できるようにしていきたい。

［成績評価の方法］

試験、リポート、講義中の小リポートの総合評価による。

［教科書］

使用しない

［参考文献］

随時紹介する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
都市社会学		春学期集中	4単位	竹　中　英　紀

［講義概要・学習目標］

社会が都市化すると、人間関係が破壊され、人は孤独におちいり、若者は犯罪や非行に走る――というような俗説がいまだにまかり通っているが、それは本当だろうか。そのような単純な見方では、都市において実際に成立して作動している社会構造とそのメカニズムを、正確にとらえることはほとんど不可能であろう。現実には、都市はたえず新しい社会関係や集団や文化を生成しているのである。

この授業では、①都市と都市生活に関する社会学理論の展開をたどったうえで、②戦後日本の高度経済成長と都市化によって形成された《現代社会》の構造について概説し、③社会階層や社会集団の空間的分布と相互関係のパターンを決定している条件を社会学的に考察する。さらに、④個別の社会集団や人間関係、社会的ネットワークのあり方を例として取り上げ、検討してみることにする。

［講義計画］

（詳細なスケジュールは授業開始時に配布する）

1. 都市社会学の学説史的展開
   - 「都市論」と「社会学」の接点
   - シカゴ学派都市社会学の展開
   - アーバニズムとサブカルチャー
2. 都市化の歴史と心情の歴史
   - 日本の高度経済成長と人口移動・都市化
   - 日本の流行歌にみる「上京」と「望郷」
3. 都市社会の空間的構造
   - 都市の社会地図／インナーシティとサバービア
   - 空間に累積するネットワークと拡散するネットワーク
4. 都市の社会集団と人間関係
   - 町内会から「公園デビュー」まで
   - 現代人のパーソナル・ネットワーク

［成績評価の方法］

出席および筆記試験の成績を総合して評価する。

［教科書］

授業時に印刷教材を配布する。

［参考文献］

C・S・フィッシャー『都市的体験』（未来社）
松本康編『増殖するネットワーク』（ミネルヴァ書房）
町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』（有斐閣）
ほか、授業時に主要参考文献リストを配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
文化社会学		春学期集中	4単位	北川　紀男

［講義概要・学習目標］

文化は人間にとって第二の本能ともいわれ、人間と文化は不可分の関係にある。それ故に、人間の社会を研究する社会学にとって、文化の研究は欠くことのできない研究課題である。最初に、文化社会学の学説史を概観し、ついで人間と文化との間に介在する根源的な関係に立ち戻って、文化の概念を尋ね、文化は社会によって制約されると同時に社会を制約するという、すぐれて社会的事象であることを明らかにする。

ついで、以上の基礎的な認識を踏まえて、複雑多岐に分化し、めまぐるしく変転する現代文化の動向を解明するために、「大衆化」「国際化」「情報化」「共生化」の視点にたって、批判的に考察をすすめてみたい。

現代文化は、複雑かつ激しく変転しており、ともすれば無批判的に追従しがちであるが、この講義を通じて、現代文化を理解する自らの視座を学びとって欲しい。

［講義計画］

講義は、以下のテーマに従って進める。

①イントロダクション　～社会学的認識について～
②社会学における文化の研究　～歴史と方法論～
③文化の概念　～シンボル・意味・価値～
④文化と社会規範　～規範・社会化・タブー～
⑤生活文化　～生活様式としての文化～
⑥文化と文明　～文明社会の諸問題～
⑦知識の社会学　～知識・イデオロギー・科学～
⑧大衆化と文化　～大衆文化・その被操作性～
⑨国際化と文化　～民族文化・国民文化・異文化間コミュニケーション～
⑩情報化と文化　～情報化社会・ニューメディア～
⑪共生化と文化　～高齢者・障害者・ジェンダー～
⑫文化変動と社会変動

［成績評価の方法］

成績評価は、与えられた課題に対するレポートと期末試験に基づいて行う。

［教科書］

北川紀男著『文化社会学研究～現代文化の理解にむけて～』（１９９９年、八千代出版）

［参考文献］

その都度、指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
宗教社会学		通期	4単位	清水夏樹

[講義概要・学習目標]

日本および西洋の宗教史をたどりながら、近・現代社会に果すその役割と機能を考える。明治以降の新宗教運動の一端をみ、戦後社会の病理―といって悪ければ"影の部分"当面する社会の問題領域を理解する手がかりとしたい。宗教にまつわる問題は、ある意味で社会学の窮極の（もしくは底流をなす）課題とさえいえる面をもつ。E・デュルケイム、M・ウェーバー等先人の業績をふまえ、また文化人類学、民俗学上の基礎知識・事例研究にも触れながら、現実の「社会」と個々の生身の「人間」との有機的な結びつきを問い直す姿勢を大切に講義をすすめたい。

随時プリント・資料を配布、それらをもとに必要に応じ簡易テストやレポート提出を試みる―欠席日数が多いと単位取得に支障をきたすことに注意のこと。なお、下記の要項は内容上前・後期にわたり錯綜し、各個に連動する側面をもつ点を断っておく。

[講義計画]

〈前期〉聖と俗、わが国固有信仰と祭りの習俗、修験道等伝統儀礼にみるシンボルの動態構造、宗教の世俗化とその逆反現象――同じく再生（再聖化）とdemonization、カリスマの社会化

〈後期〉神仏習合にみる日本人の信仰心の特徴、その前史的基盤、日本近代化の舞台裏を担うものとしての新宗教教団の意義、経済発展と宗教倫理との逆説的な関係、近・現代社会のひずみと宗教ブーム

[成績評価の方法]

[教科書]

講義中に指示する

[参考文献]

追って順次紹介する

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
教育社会学		通期	4単位	山内乾史

[講義概要・学習目標]

本講義は、教育の世界で起きる諸問題を社会学的視点から捉えていく方法について検討することを目的とします。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に教育の世界だけを見つめるのではなく、巨視的な分析方法が必要とされます。本講義では、欧米との比較（特にアメリカ合衆国とイギリス）を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していきます。

講義は多人数になることが予想されるので、ＯＨＰやビデオによる資料提示が多くなることと思います。

[講義計画]

１．イントロダクション
２．教育社会学とは何か：日英米を比較検討していく基本的枠組みについて
３．日本における学歴社会論（１）～（３）
４．アメリカ合衆国の教育史（１）～（３）
５．イギリスの教育史（１）～（３）
６．日本における学力低下問題と改革（１）～（３）
７．アメリカ合衆国における学力低下問題と改革（１）～（３）
８．イギリスにおける学力低下問題と改革（１）～（３）
９．日本における大学改革と教育機会の変化（１）～（２）
１０．アメリカ合衆国における教育機会とマイノリティ（１）～（２）
１１．イギリスにおける大学改革（１）～（２）
１２．まとめ：日英米の教育問題と教育改革

[成績評価の方法]

成績評価は試験（75％）と授業終了時に課すレポート（25％）によります。具体的な方法については講義の時に指示します。

[教科書]

原清治・山内乾史・杉本均編『比較教育社会学入門』学文社、2003年

[参考文献]

原清治・山内乾史『学力低下（仮題）』ミネルヴァ書房、2003年

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
心理学	01 02	通期 通期	4単位 4単位	加納真美

[講義概要・学習目標]

『心理学』を学びたいと考えている人に、心理学とはどのような学問なのかを理解してもらうことを目標とする。そのため、心理学全体の統合的な見取り図を示し、心理学が日常の生活で疑問に思うような問題を、どのように明らかにしてきたかを考察していきたい。この講義では、特に生涯発達の視点から、人間のしくみに関する解明を心がけたい。

[講義計画]

1 心理学とは何か・・・歴史と方法
2 心の進化・・・動物としての人間
3 心の発達・・・乳幼児期の心理
4 ライフサイクル・・・自分をみつめる
5 動機づけ・・・人を動かすもの
6 性格・・・その人らしさとは何か
7 知能・・・頭が良いとは？
8 感覚・・・心の窓
9 知覚・・・見えの世界を作り上げる
10 記憶・・・覚える事と忘れる事
11 学習・・・経験を生かすこと
12 思考・・・論理と直感
13 脳と心・・・心の生物学的基盤
14 脳損傷と心の働き
15 社会のなかの人・・・他者による影響
16 心と社会・・・強調と信頼

[成績評価の方法]

期末の筆記試験、レポート、授業態度等を総合的に評価する。

[教科書]

『はじめて出会う心理学』 長谷川寿一・東條正城・丹野義彦著

有斐閣アルマ 2000 1900円＋税

[参考文献]

菊池聡・谷口高士・宮元博章編著 『不思議現象 なぜ信じるのか こころの科学入門』 北大路書房 1995

ジョージ・バターワース著 村井潤一監訳『発達心理学の基本を学ぶ』 ミネルヴァ書房 1997

社会 02～

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
心理学	03	春学期集中	4単位	冷水啓子

[講義概要・学習目標]

これから心理学を学ぼうとするみなさんは，「心理学」という学問領域に対してどのようなイメージをいだいているであろうか？ 近年マスコミでよく取り上げられている「犯罪心理学」，「深層心理学」，「臨床心理学」，「カウンセリング」といった類のものがイコール「心理学」である（それら以外は，たとえ人間の「心」に関わりがあろうとも「心理学」とはみなさない）という強固な先入観（あるいは偏見）にとらわれているのが大勢ではなかろうか。もちろん，それらは「心理学」のなかで重要な分野であるが，「心のしくみとはたらき」を研究する科学としての「心理学」の研究領域はそれだけではなく，きわめて広く学際的である。

わたしたちの日常的活動を例に考えてみよう。わたしたちは周囲の世界からさまざまな情報を取り入れ処理しながら，日常生活を円滑に営んでいる。しかし，普段何気なく行っている，見る，聞く，感じる，考える，覚える，判断するといった活動も，実に複雑な心のはたらきによるものであることがわかっている。このように，外界から取り入れた情報を，必要に応じて加工，貯蔵，利用するという，人間における基本的な情報処理活動について研究する「認知心理学」というのも「心理学」の一分野である。そこで，この講義では，近年の心理学研究上のさまざまな知見・成果を概観し，人間の心のしくみとはたらきについて総合的に理解していくことを目指す。

なお，授業に関連する資料は，コンピュータ，OHC，VTR，印刷物などを通じて適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

[講義計画]

1．心理学とは何か？：「心のしくみとはたらき」の理解
　1）心理学の歴史
　2）心理学の研究方法
2．感覚と知覚
3．学習と記憶
　1）学習の理論
　2）観察学習
　3）記憶の構造
　4）日常的記憶
4．動機づけと情動
5．発達
　1）初期発達
　2）遺伝と環境
　3）発達理論
6．性格
　1）類型と特性
　2）性格テスト
7．対人関係

〔但し，授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

[成績評価の方法]

学期末に試験を実施する。必要に応じて，簡単な実験・調査への参加やレポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

[教科書]

梅本堯夫・大山 正・岡本浩一（編）『心理学—心のはたらきを知る—』（サイエンス社）

[参考文献]

福祉士養成講座編集委員会（編）『心理学』（中央法規）
中島義明（編）『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣）
大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）
下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—』（東京大学出版会）
梅本堯夫・大山正（共編著）『心理学への招待—心の科学を知る—』（サイエンス社）
他

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
心理学	０４	秋学期集中	４単位	伊藤　高章

［講義概要・学習目標］

1　心理学の概要を理解させる。
2　乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。
3　心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。
4　心理的援助技法の概要について理解させる。
5　社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

［成績評価の方法］
ブック・レポートの提出（３本）
学期末試験

［教科書］
『遊びと発達の心理学』（心理学選書４）（黎明書房）
ISBN　4654000747　　2,500円

［参考文献］

［講義計画］

1　人間の心理学的理解
　1）欲求・動機づけと行動
　2）感情・情動
　3）感覚・知覚・認知
　4）学習・記憶・思考
　5）知能・創造性
　6）人格
　7）適応と適応異常
2　人間の成長・発達と心理
3　人間理解のための心理学理論と技法
　1）基礎理論
　　①精神分析
　　②行動分析
　2）測定と診断
　　①発達
　　②知能
　　③性格
4　心理的援助技法の概要
　1）心理療法（個別面接法・集団面接法）
　2）家族心理療法
　3）行動療法

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会病理学		通期	４単位	菰渕　緑

［講義概要・学習目標］
社会病理学は、社会に生じている解決困難な諸問題を分析するための学問の一つである。社会的な諸問題が生じてくる原因、過程、結果などを理論的に究明し、解決へ向けての方向性を探ることを目的としている。本講では社会病理学の発達過程をその社会的背景の解明とともに論じ、さらに代表的な社会病理学理論を新しい視点から見直す。そして改めて社会病理とは何か、病理判定の基準とは、という基本的な問題を検討していく。

［成績評価の方法］
筆記試験によって評価する

［教科書］

［講義計画］
1. 社会病理学とは何か
2. 社会病理学の分野
3. 社会病理学研究の系譜
　ヨーロッパにおける社会病理学研究
　アメリカにおける社会病理学研究
　日本における社会病理学研究
4. 社会病理学の諸理論
　社会不適応論、疎外論、文化遅滞論、社会解体論、アノミー論
　逸脱行動論、ラベリング論など
5. 社会病理の判定基準

［参考文献］
その都度、紹介する

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
産業社会学		春学期集中	4単位	上田　修

［講義概要・学習目標］

「失われた10年」という言葉に象徴されるように、わが国は長期にわたる経済不況に喘いでいる。この過程で、1980年代は国際的に高く評価されていた日本企業の経営システムも金融関連産業を中心として批判を浴び、改革の対象とされている。金融不安はいうまでもなく、リストラ、企業倒産による失業者の増大、さらにグローバルスタンダードのかけ声と共に、かつて日本的と称され、良好な国際的パフォーマンスの一因とみなされた制度、特徴に対する信頼は揺るぎ、評価の大幅な低下に結びついている。

しかし、戦後の時期に限っても、日本企業の雇用・人事管理をはじめとする様々な特徴・特質に対する評価は、時期によって大きく変化してきた。この点を念頭におき、この授業では、日本企業が採用する雇用・人事・労務管理制度の特徴をアメリカ、ヨーロッパの企業と比較しながら検討するとともに、いかにこれらが変化してきたのかを明らかにする。同時に、これらの日本的特質とされる事柄が働く人々の生活や社会関係にどのような問題を投げかけているのかを考察する。

［講義計画］

Ⅰ　総論
1　日本企業をめぐる評価とその変遷
2　日本的特質と実態

Ⅱ　制度と政策の歴史的展開
1　労務管理：年功制から能力主義へ
2　人事管理：伝統的管理と能力主義
3　雇用管理：終身雇用の動揺と多様化する雇用
4　賃金：平等と格差

Ⅲ　変わる労働世界
1　労働市場の変容と労働政策の転換
2　女性労働の増大：均等法と女性の労働世界
3　ホワイトカラーの労働と管理
4　企業社会の変容？

［成績評価の方法］

学期末試験の成績で評価する。

［教科書］

使用しない。ただし、各パートに入る時、講義内容の概略（レジュメ）を配布する。

［参考文献］

各講義概要（レジュメ）で指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
産業心理学		春学期集中	4単位	西川　一廉

［講義概要・学習目標］

長引く不況の中で，いま産業社会は大きく変わりつつある。そこで働く人々は何を目的に働くのか。何を喜びとして働くのか。好むと好まざるとにかかわらず，勤労者の生活は職場（会社）を中心に営まれる。そこで起こるさまざまな出来事は，働く人々とその家族に大きく影響する。

ソフト化・サービス化，情報化，コンピュータ化，共働き化，高齢化する社会の中での仕事，職場の人間関係，技術革新と能力開発，人事制度と処遇，若年者と中高年齢者の雇用，職場のストレスとメンタルヘルス等々，職場生活は多様な問題を抱えている。人はこうした会社組織の中でどのように生きようとしているのか。さらに女性の労働力化が進む中で，仕事と家族のバランスはどのようにとられるのか。高齢化が進む中で，職場環境はどのように改善されなければならないのか。

当講義では，このようにダイナミックに変化する労働環境と，そこで働く人々について，心理学の立場から考える。

［講義計画］

勤労者の生きがい，労働時間構造の変化と労働，女性労働・家族・企業社会，働く意欲，人事管理と能力開発，職場の人間関係，産業ストレスとメンタルヘルスなど，いわゆる組織心理学的諸問題について，各種調査結果や今日的出来事を例示しながら講じる。

［成績評価の方法］

成績の評価は期末試験による。

［教科書］

ＮＩＰ研究会（編）　2000　『仕事とライフスタイルの心理学』　福村出版

［参考文献］

随時，指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
人間工学概論		通期	4単位	三戸 秀樹

［講義概要・学習目標］

人間と機械のかかわりは古い．この人間と機械の関係から発生した人間工学に関する基礎的理解を深め，今後の人間と機械の関係のあり方について言及する．近年の機械系，とくにコンピュータリゼーションの進歩にともなう，人間らしい“人間－機械”の関係が実現しつつある反面，労働場面では，非人間的な“人間－機械”の関係が観察される．この非人間的側面は，かつて労働にあった「働きがい」をも失わせる要素を有しはじめている．さらに，一部では産業ストレス時代ともいわれ，真に人間中心的な視点に基づいた人間工学導入が緊要である．

単なる既存知識の習得に主眼をおくのではなく，働く人々の個々のおかれている状況・状態にたえず疑問を発しながら，「どうしてそうなのか」「どうすれば良くなるのか」を，人間工学的に考える姿勢を重視する．人間を中心にすえた視点から人間工学の基本を学びとって欲しい．なお，文科系受講生へ配慮して，数式をほとんど用いないで講じる工夫をしている．

［講義計画］

<前　期>

(1)はじめに

人間工学の定義，労働態様の変化，

(2)人間特性

生体次元，感覚入力系，覚醒水準，生体リズム，反応特性，性差，疲労，蓄積性疲労，

<後　期>

(3)人間と機械

マン・マシン・インタフェース，頚肩腕障害，振動障害，ＶＤＴ作業，テクノストレス，

(4)応用人間工学

立ち作業，障害者，二次的障害，高齢化，安全人間工学，交通科学，

(5)労働の快適化

労働の人間化，ゆとり，人間工学専門家資格，

［成績評価の方法］

テストとレポートを予定．

［教科書］

テキストは使用しない．
プリントを配布します．

［参考文献］

労働と健康の科学研究会(編)「労働と健康の科学」(労働経済社)
三戸秀樹ほか(著)「安全の行動科学」(学文社)
千田忠男ほか(著)「労働科学論入門」(北大路書房)
井上正康，倉恒弘彦，渡辺恭良(編)「疲労の科学」(講談社)

社会 02～

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
労働経済論		通期	4単位	片岡洋子

［講義概要・学習目標］

これから大学を卒業し、仕事をすることになる人にとって、一番の関心は採用に関することかもしれません。しかし、採用後の、昇進・昇給、そして退職といった仕事にまつわるイベントがどのように決定されているのかについてこそ興味を持って欲しいと思います。講義は大卒の雇用管理を中心に進めていきます。

現在の日本の雇用管理、中でも報酬に関する側面は激変しており、今後の変化に対応するためにも諸外国の状況も含めて、理解することが学習する上での目標となります。

［講義計画］

春学期は、仕事を通じてのキャリア形成や報酬管理がどのように行われているのかなど、雇用管理のあり方を日本と外国の比較を通じて、明らかにしていきます。

秋学期には、女性や中高年といった、労働者グループごとの特質にも話を広げていきます。

［成績評価の方法］

成績は定期試験によって決定します。

［教科書］

『仕事の経済学 第2版』
小池和男著　東洋経済新報社 1999年（3200円）

［参考文献］

『労働経済学』
中馬宏之，樋口美雄著　岩波書店　1997年（2500円）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会政策総論		通　期	4 単位	片　岡　洋　子

[講義概要・学習目標]

現在の社会では働くことと、生活のバランスをとることが重要な課題となっています。そこで、社会政策を学ぶにあたって、このバランスをとるための視点を持ちながら、まず雇用の面をとりあげ、働く上で欠かせない法規制がどのように出来てきたのか、その背景を含めて解説します。次に、社会保障の面、たとえば医療や年金といった日々の生活を支える社会の仕組みについて学びます。

ただ現代の社会制度がどのように成り立っているかを知るだけでなく、それがそのように形成されてきたのかについても深く考察することが学習の目標となるでしょう。

[講義計画]

講義は雇用の面と、社会保障の面に大きく分けて授業を進めていきます。春学期に雇用面を、秋学期に社会保障面を主に取り上げます。

[成績評価の方法]

成績は定期試験によって決定します。

[教科書]

『現代の社会政策　第3版』
石畑良太郎，佐野稔編　有斐閣　1996年（2300円）

[参考文献]

『社会政策を学ぶ人のために 新版』
玉井金五，大森真紀編　世界思想社　2000年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コミュニケーション論		秋学期集中	4単位	西川　一廉

[講義概要・学習目標]

人間は一人では生きてゆけない。複数の人が寄り合ってさまざまな集団，社会を構成し，その中で生きている。人間とはまさに「人と人の関係」の中に生きる存在である。そこで人と人をつなぐもの，それがコミュニケーションである。しかしコミュニケーションについて考えるには，他者より先に，まず自分が自分をどのように認知しているかが問題になる。その上で，他者との関係が浮上する。またコミュニケーションはことばに限らない。「目は口ほどにものをいい」などといわれるが，身振り，手振りから始まって顔面表情や視線など，いわゆるノンバーバル・コミュニケーションの方がよく用いられる。沈黙が語るところは奥深い。さらに話すこともさることながら，聞くことの重要性を知らなければならない。

当講義では，個人，対人文脈，そして集団文脈でのコミュニケーションについて，心理学の立場から考える。したがって心理学的コミュニケーション論，あるいは社会心理学的コミュニケーション論である。

[講義計画]

自己概念，知覚過程，自己開示と自己呈示，スピーキングとリスニング，対人相互作用，対人魅力と印象形成，バーバル／ノンバーバル・コミュニケーションなど，日常の具体的出来事を取り上げながら，また各種実習によって自己理解をはかりながら，コミュニケーションの基本について考える。

さらにコミュニケーションを通してなされるリーダーシップや説得（態度変容），あるいは小集団における人間関係のダイナミクスについても考える。

あくまでも心理学に軸足をおいたコミュニケーション論あるいは人間関係論である。

[成績評価の方法]

成績の評価は期末試験による。

[教科書]

西川一廉・小牧一裕著　2002　『コミュニケーションプロセス』　二瓶社

[参考文献]

随時，指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
マス・コミュニケーション論Ⅰ		秋学期集中	４単位	中村　秀之

［講義概要・学習目標］

本講義が扱うのはマス・メディアとマス・コミュニケーションにおける映像の問題です。

映像はマス・メディアとしてどのように使われ、そのメディアとしての映像にはどのような特性があるのか、映像によるコミュニケーションとはいったい何なのか、このような諸問題に歴史的な視点からアプローチしていきます。１９世紀初頭の写真の発明から映画やテレビ、ビデオを経て現代のディジタル映像まで、映像資料を視聴しながら、映像にかんする技術、その利用形態、組織や制度、表現様式等の変遷を述べ、さらに、映像をめぐる人々の経験のあり方や、映像に対する考え方がどのように変化してきたかを論じます。

現代の生活世界に深く浸透している映像メディアの歴史を学ぶことを通して、映像メディアはどのようにして私たちの「現実」を作り出してきたのか（これは「やらせ」に限ったことではありません）、また、私たちは「映像メディアという現実」とどのような関係を結んでいるのか、このような二重性について理解を深めることが本講義の目標です。

［講義計画］

次のような項目と順序を予定していますが、初回の授業のガイダンスの際に詳細なスケジュールを伝えます。

映像とは何か。メディアとは何か。マス・メディアとマス・コミュニケーションとは何か。その研究史。１９世紀における写真の発明と「写真」という観念の形成。動画の誕生と見世物としての「初期映画」。サイレント映画の特性とその多様な発展。写真製版と印刷メディアの変化。システムとしてのハリウッド映画。ノンフィクション映画の政治学。テレビの普及と家庭の再編。テレビとグローバリゼーション。ビデオと時間の変容。環境としての映像。ディジタル映像と「現実」観念の危機。反=メディアとしての映像。

［成績評価の方法］

学期末の筆記試験で評価します。

出席点はカウントしませんが、授業への参加が講義内容の理解にとって不可欠であるのはいうまでもありません。特に本講義は映像資料を視聴する機会が多くなるので、その点は銘記しておいてください。

［教科書］

授業中にプリントを配布します。

［参考文献］

適宜指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ﾏｽ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論Ⅱ		秋学期集中	4 単位	津金澤　聡　廣

［講義概要・学習目標］

我々は、日々、新聞・雑誌を読み、テレビ・ラジオを視聴したり、他の様々なメディア文化に接触して暮らしている。そして、それらの情報摂取をとおして、いわばその時代の“常識”や社会風俗を吸収している事が多いが、そもそも、マス・コミュニケーションとは何なのか、マスメディアは我々の生活にとってどんな社会的役割を果たしているのか、を改めて考え直してみたい。あるいは、マス・コミュニケーションを媒介するマス・メディアのあり方はこれでよいのか、何が問題なのかを、共に考え、検討したいと思う。

［講義計画］

次の各領域について概説を行う。

1.　ジャーナリズム、マス・メディア、マス・コミュニケーションの定義
2.　テレビ批判の系譜
3.　マス・メディアをめぐる法的諸問題
4.　新聞倫理綱領と新聞編集に関する法規
5.　放送法の諸問題
6.　マス・メディアをめぐる社会心理の問題化
7.　「高度情報化」現象の進展とマス・メディア
8.　現代社会におけるマス・メディアと日常の生活文化

［成績評価の方法］

平常点（レポート提出等）と学期末試験による総合評価。

［教科書］

津金澤聡廣・田宮武　著
『テレビ放送への提言』
ミネルヴァ書房、１９９９年

［参考文献］

その都度指示する。（文献多数）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
日本文化論（旧日本文化研究ー文学）		秋学期集中	4単位	深澤　徹

［講義概要・学習目標］

ナショナリズムには様々な側面から論じられるが、そのもっともソフトな形態として「文化ナショナリズム」がある。近代社会においては、日本に限らず、文化を通してナショナリズムを喚起し、補強していくということがなされるのだ。本講義では、その「文化としての日本主義」について、様々な歴史過程のなかで、それが果たした役割について論ずる。

扱う対象は主に戦後の日本社会で行われた「日本文化」についての様々な言説（いわゆる日本文化論）だが、前近代（江戸・中世・古代）へと適宜時代を遡らせて、世界でもまれに見る完璧な「国民国家」が創出されていく過程をたどることになるだろう。

［講義計画］

1．戦後日本の日本文化論の展開
2．日本における国民国家の創出過程
3．起源としての古代

［成績評価の方法］

２度行う試験の成績と、出席状況とを合わせて評価する。

［教科書］

深沢徹著『自己言及テキストの系譜学』（森話社・２００２）

［参考文献］

南博著『日本人論ー明治から今日までー』（岩波・１９９４）
青木保『日本文化論の変容』（中央公論・１９９０）
吉野耕作『文化ナショナリズムの社会学』（名大出版・１９９７）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
キリスト教学 （旧　キリスト教概論）		秋学期集中	4単位	滝　澤　武　人

［講義概要・学習目標］

「新約聖書」には２７冊のさまざまな文書が含まれています。それらはいずれも人類全体の大いなる知的遺産であり、今日においてもなお文学・歴史・思想・宗教・芸術などに対して新鮮な光を投げかけています。この講義の目標は、「新約聖書」の中の「マルコ福音書」を読むことにあります。

「福音書」とはいわば一つの「文学」（ノンフィクション、ドキュメンタリー、評伝）であり、その著者は「作家」「編集者」と言えます。したがって、そこにはきわめて特色ある独自の思想と断固たる主張とが存在しています。それらを明らかにするためには、文学や思想などの研究一般に用いられている学問的な方法を土台としなければなりません。もちろん、「信仰」の有無などには全く関係がなく、誰でもが自由に受講することができます。真面目な学生諸君の主体的でねばり強い受講を期待しています。

［講義計画］

「マルコ福音書」を最初から最後まで読みすすめます。そこでは次のような現代的なテーマが論じられることになるでしょう。

1　イエスに従う
2　弟子批判
3　被差別民衆
4　ユダヤ教批判
5　人間主義・現実主義
6　神の国
7　福音
8　倫理
9　終末論
10　受難物語
11　復活物語
12　誕生物語

［成績評価の方法］

試験・レポート・出席（受講姿勢）などを総合的に評価します。

［教科書］

新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会）
聖書のテキストを自分自身で読むことが中心課題ですので、聖書を毎時間必ず持参して下さい。）

［参考文献］

滝澤武人『マルコの世界』（日本キリスト教団出版局）
〃　『福音書作家マルコの思想』（新教出版社）
〃　『人間イエス』（講談社現代新書）
田川建三『原始キリスト教史の一断面』（勁草書房）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
環境問題概論		秋学期集中	４単位	巖　圭　介

［講義概要・学習目標］

環境問題に関するニュースがマスメディアに流れない日はない。ダイオキシン、環境ホルモンといった、人体に悪影響があるとされる人工化学物質の検出、シックハウス症候群やアレルギー、家庭ゴミや産業廃棄物の処理機能の限界、リサイクル、省エネルギー、環境に優しい製品、水や大気の汚染、オゾンホール、地球温暖化。あふれかえる情報はかえって市民の感覚をマヒさせ、センセーショナリズムと虚無、そして不安に乗じた似非（えせ）科学をはびこらせる。

今必要とされるのは、上滑りなマスコミの情報に惑わされないための正しい基礎知識と、いたずらに不安を増幅させられないための基本的なものの考え方である。この授業では現在の主要な環境問題についての基礎的な理解を深め、環境意識を高めてもらいつつ、環境に関する情報の洪水の中を泳ぎ抜く力をつけてもらうことを目的とする。

［講義計画］

時事問題も取り入れながら、おおむね以下のようなテーマに沿って進行する（順序は変更の可能性あり）。

・あふれるゴミ
・汚される地球
　DDT・PCB、ダイオキシン、環境ホルモン
・破壊される地球システム
　酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化
・砂漠化する大地
・水の危機
・エネルギー問題

［成績評価の方法］

テーマの区切りごとに課すイン・クラス・レポート（授業時間中に書く短いレポート）と期末試験により判定する
（詳細は初回講義にて説明）

［教科書］

とくになし

［参考文献］

遠山益　『人間環境学』　裳華房　2001
石弘之　『地球環境報告Ⅱ』　岩波新書　1998
安井至　『市民のための環境学入門』
　　丸善ライブラリー　1998

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学特講（統計解析法入門）		秋学期	２単位	木下　栄二

［講義概要・学習目標］

本講義では、現在の社会調査の主流をなす調査票調査によって得られたデータに対する統計的解析法の基礎知識の習得を目標とする。主要な習得課題は、正規分布に対する理解、変数という考え方、量的変数と質的変数の区分、２変数間の関連の見方、そして３変数以上の関連をみるための基礎知識である。

授業は、「社会調査実習」を履修している者、履修した者、あるいは履修を強く希望する者を念頭に行う。文科系の学生にはややハードなものになるかも知れない。適宜、コンピューターも使用するが、原則としては手計算によって、統計解析の理論を身につけてもらいたいと考えている。

［講義計画］

（１）基本統計量
　（算術平均、分散、標準偏差、偏差値）
（２）量的変数と質的変数
　（分散量と連続量、尺度化の４水準）
（３）正規分布
　（二項分布と正規分布、サンプリング、中心極限定理）
（４）質的変数と質的変数との関連
　（クロス表の見方、カイ自乗検定、属性相関係数）
（５）質的変数と量的変数との関連
　（平均値の差の検定）
（６）質的変数と量的変数との関連
　（分散分析、Ｆ検定）
（７）量的変数と量的変数との関連
　（ピアソンの積率相関係数）
（８）エラボレーション
　（第３変数の導入）
（９）多変量解析法の概観
　（主成分分析、因子分析、重回帰分析等）

［成績評価の方法］

学期末試験８０％、小テスト１０％、出席・授業態度１０％
詳細については初回の授業で説明する。

［教科書］

特に指定せず。

［参考文献］

高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書
安田三郎・原純輔『社会調査ハンドブック』有斐閣双書
Ｐ・Ｇ・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館
原純輔・海野道郎『社会調査演習』東京大学出版会
大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武（編著）
『社会調査へのアプローチ　論理と方法』ミネルヴァ書房

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
現代文化特講 花月雪と漂泊（旅）		春学期集中	4単位	出　原　博　明

［講義概要・学習目標］

花時鳥月雪に代表される日本人の美意識と漂泊という思想を現代文化の中に探ります。これを最も顕著に表わしているのが俳句芸術なので、このアートを主な手がかりとします。これとの関連に於て、短歌や詩をも取りあげます。

芭蕉から現代の第一線で活躍している俳人に至るまでを辿り、この伝統芸術がいかに新しく甦り続けてきたかを明らかにし、それの現代に於ける意味を考えます。現在、女性と若者を巻き込んで空前の俳句ブームとなり、世界規模の国際化も進んでいるということとその問題点。この日本のアートと欧米の文学・文化との関係などについても勉強します。

（授業中の、ケイタイによるメール、私語、内職、を厳禁。これの守れない学生はこの講義を受講しないように。）

「ペリカンの大口あけて夏日のむ」（博明）

［講義計画］

芭蕉から現代の第一線で活躍している俳人に至るまでの作品を、作者の生き方をも含めて、味わい楽しみます。（小中学生、高校生、大学生、外国人などの作品も紹介します。欧米人が作る所謂haikuというものも。）俳句の本質とされている詩性、抒情、諧謔、おかしみ、挨拶、自然への存問、などについて勉強します。時には、短歌や詩も取り上げます。西行や芭蕉から現代に続く漂泊という生き方の思想とその系譜を辿ります。

俳句の国際化が盛んですが、これの外国での受容に際しての色々の問題点について比較文化的観点から考えます。（俳句がこれまで外国の文学・文化にどのように影響を及ぼしてきたか、ということについても勉強します。）

現在の空前の俳句ブームを冷静な目で分析してその実相に迫ります。現代文化の中での俳句芸術の存在意義について多角度から考えます。

補助的にビデオも利用します。

［成績評価の方法］ 数回以上のテストとリポート

［教科書］

教室で指示。

［参考文献］奥の細道（芭蕉）、芭蕉の山河（加藤楸邨）、芭蕉の誘惑（嵐山光三郎）、進むべき俳句の道（高濱虚子）、女流俳句集成（黒田杏子他編）、俳句からHAIKUへ（佐藤和夫）、HAIKU(R.H.Blyth)、漂泊の俳人達（金子兜太）、現代俳句観賞（長谷川櫂編著）、俳句のゆたかさ（森澄雄）日本の伝統文化としての俳句と英米の詩（出原博明）。